

LIXIL クレフヤードFX15A・FX30A 取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>



注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 設置場所の確認をしてください。
 - ・施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
 - ・施工場所の気象条件（風、雪など）に合った商品かどうか確認してください。
 - ・建物の屋根からの雪の落下を、直接受けない位置かどうか確認してください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が製品内（屋根・パネルなどで囲んだ内部）にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒や塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。
 - ・強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上などの施工は避けてください。
- 給排水管などの地下埋設物に影響を与えないでください。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋込み深さを確保してください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・ 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・ 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・ 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・ 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・ 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・ 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 樋の端末以降の排水については、当社供給範囲外になっていますので、施工店様または施主様で手配してください。
- 風当たりの強い場所では、ヤードの周囲を囲わないようにしてください。風が抜けなくなり破損のおそれがあります。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 指定の箇所にシーリングをしてください。
- 重量部材の取付けがあります。危険を避けるために2～3人以上の作業人数を確保してください。

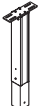
<基礎工事について>

⚠ 注意

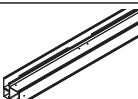
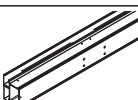
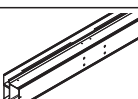
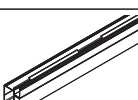
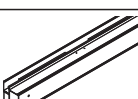
- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ず栗石を敷いてください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

■梱包明細表

【1】柱セット

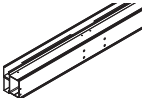
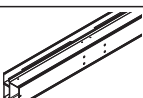
名 称	略 図	員 数		名 称	略 図	員 数	
		両支持	片支持			両支持	片支持
両支持柱		1	—	片支持柱		—	1

【2】桁セット

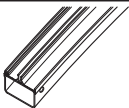
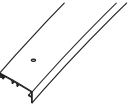
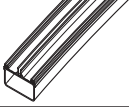
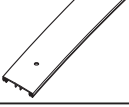
名 称	略 図	員 数																							
		FX15A																FX30A							
		W20・25						W30						W40～60						W20～40					
		単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左
桁100(単独右)		1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁100(単独左)		—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁100(基本右)		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁100(基本左)		—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁100(連棟右)		—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁100(連棟左)		—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(単独右)		—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(単独左)		—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(基本右)		—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(基本左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(連棟右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150(連棟左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

■梱包明細表(つづき)

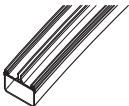
【2】桁セット(つづき)

名 称	略 図	員 数																							
		FX15A																FX30A							
		W20・25						W30						W40～60						W20～40					
		単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左	単 独 右	単 独 左	基 本 右	基 本 左	連 棟 右	連 棟 左
桁150B(単独右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150B(単独左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150B(基本右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150B(基本左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
桁150B(連棟右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
桁150B(連棟左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
桁(単独右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
桁(単独左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
桁(基本右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
桁(基本左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
桁(連棟右)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
桁(連棟左)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
孔ふさぎプレート		2	2	—	—	2	2	2	2	—	2	2	2	2	2	—	2	2	2	2	2	—	—	2	2
アタッチメント パッキン		1	1	—	—	1	1	1	1	—	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	1	—	—	1	1
【2-1】φ4×13 ナベドリルネジ		4	4	—	—	4	4	4	4	—	4	4	4	4	4	—	4	4	4	4	4	—	—	4	4

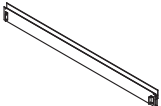
【3】端部アーチセット

名 称	略 図	員 数
端部アーチ		2
端部アーチカバー		2
中間アーチ		1
中間アーチカバー		1

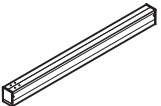
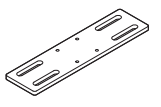
【4】中間アーチセット

名 称	略 図	員 数
中間アーチ		2
中間アーチカバー		2

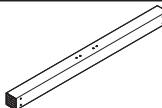
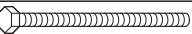
【5】前枠セット

名 称	略 図	員 数
前枠		2

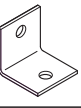
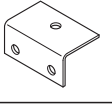
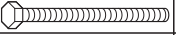
【6】片支持梁セット

名 称	略 図	員 数
片支持梁		1
柱金具		2
【6-1】M6×25サラ小ネジ		8

【7】両支持梁セット

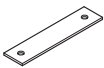
名 称	略 図	員 数
両支持梁		1
ワイド梁金具		4
【7-1】M10×25六角ボルト 座金組込(PW+SW)		8
【7-2】M10×140六角ボルト		4
【7-3】M10袋ナット		4
【7-4】M10平座金		8
【7-5】M10バネ座金		4

【8】束柱セット

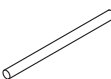
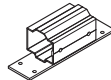
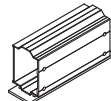
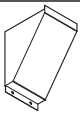
名 称	略 図	員 数	
		2本入	3本入
束柱		2	3
束柱ブラケットA		4	6
束柱ブラケットB		4	6
【8-1】M10×25六角ボルト 座金組込(PW+SW)		4	6
【8-2】M10×100六角ボルト		2	3
【8-3】M10袋ナット		2	3
【8-4】M10平座金		4	6
【8-5】M10バネ座金		2	3
【8-6】M6×80六角ボルト		4	6
【8-7】M6ナット		4	6
【8-8】M6平座金		8	12
【8-9】M6バネ座金		4	6

■梱包明細表(つづき)

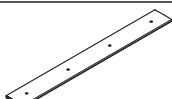
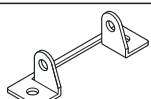
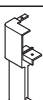
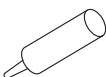
【9】棟木セット

名 称	略 図	員 数					
		15A			30A		
		単独	基本	連棟	単独	基本	連棟
棟木		1	2	1	1	2	1
棟木裏板		—	1	1	—	1	1
【9-1】M6×16六角ボルト 座金組込(PW+SW)		6	14	6	6	10	4
【9-2】φ5×19ナベドリルネジ		12	28	12	12	20	8

【10】柱部品セット

名 称	略 図	員 数						
		両支持					片支持	
		15A			30A			
		端部	連棟		端部	連棟	端部	連棟
W20・25	W30～60							
アンカー棒		4	2	2	4	2	—	—
桁スリーブ		—	2	—	—	—	—	2
ワイド桁スリーブ		—	—	2	—	2	—	—
雨樋連結材		—	2	2	—	2	—	2
スペーサー		—	—	—	—	—	2	1
片支持柱金具カバー		—	—	—	—	—	4	2
【10-1】M10×30六角ボルト		16	12	8	16	8	16	12
【10-2】M12平座金		16	12	8	16	8	16	12
【10-3】M10バネ座金		16	12	8	16	8	16	12
【10-4】φ5×12トラスタッピンネジ3種		—	8	8	—	8	8	12
【10-5】M10×45六角ボルト		—	—	—	—	—	16	8
【10-6】M12平座金		—	—	—	—	—	16	8
【10-7】M10バネ座金		—	—	—	—	—	16	8

【11】アーチ部品セット

名 称	略 図	員 数											
		中間						端部					
		W20	W25	W30	W40	W50	W60	W20	W25	W30	W40	W50	W60
中骨		4	6	8	8	12	12	4	6	8	8	12	12
ワイド中骨A		—	—	—	2	2	—	—	—	—	2	2	—
ワイド中骨B		—	—	2	—	—	4	—	—	2	—	—	4
ワイド中骨カバー		—	—	2	2	2	4	—	—	2	2	2	4
アーチ金具		4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2
端部アーチ金具		—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4
コーナーキャップR		—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	2	2
コーナーキャップL		—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	2	2
シーリング材		—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補修ペン		—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1
アルミテープ		—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1
【11-1】φ5×14トラスタッピン ネジ3種樹脂座金付		26	33	55	55	72	88	39	49	78	78	104	118
【11-2】M6×16六角ボルト 座金組込(PW+SW)		8	8	8	8	8	8	16	16	16	16	16	16
【11-3】M6×80六角ボルト		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【11-4】M6平座金		8	8	8	8	8	8	12	12	12	12	12	12
【11-5】M6バネ座金		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【11-6】M6六角ナット		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【11-7】φ5×12トラス タッピンネジ3種		8	12	20	16	24	32	28	32	40	36	44	52
【11-8】φ5×19ナベドリルネジ		—	—	—	8	8	—	—	—	—	8	8	—
取付説明書<E297>	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1

■ 梱包明細表(つづき)

【12】 縦樋セット

名 称	略 図	員 数	
		両支持	片支持
縦樋(φ40)		2	—
縦樋(φ60)		—	1
横樋		—	1
丸樋(φ40)		2	1
丸樋(φ60)		—	1
サドル		4	2
サドル受け		4	2
アタッチメント(φ40)		2	2
アタッチメントパッキン		2	2
アタッチメントプレート		2	2
エルボ(φ40)		2	4
ドレンエルボ(φ40)		2	—
雨樋ジョイナー		2	2
アタッチメント(φ60)		—	1
アタッチメントパッキン(φ60)		—	2

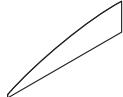
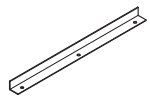
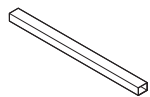
名 称	略 図	員 数	
		両支持	片支持
エルボ(φ60)		—	1
ドレンエルボ(φ60)		—	1
孔ふさぎ(φ60)		—	1
横樋金具C		—	1
横樋金具D		—	1
接着剤		1	1
【12-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種		4	8
【12-2】φ5×12トラスタッピンネジ3種		8	4
【12-3】φ5×16ナベドリルネジ		8	4
【12-4】M4×10トラス小ネジ		—	4
【12-5】M4ナット		—	4
【12-6】M4バネ座金		—	4
【12-7】φ5×19ナベドリルネジ		—	2

【13】 屋根材セット

名 称	略 図	員 数		
		W20・25	W30・40・50	W60
屋根材		2	4	6

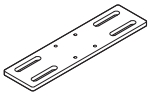
【14】前面パネルセット

オプション

名 称	略 図	員 数		
		W20・ 25・30	W40・ 50	W60
前面パネルA		2	—	—
前面パネルB		—	4	4
前面パネル押え		2	2	2
前面パネル梁		—	2	2
前面パネル束柱		—	2	2
前面パネルカバー		—	2	2
前面パネル梁金具		—	4	4
束柱ブラケットA		—	4	4
【14-1】φ5×19 ナベドリルネジ		6	18	18
【14-2】M10×25 六角ボルト座金組込 (PW+SW)		—	4	4
【14-3】M10×80 六角ボルト		—	2	2
【14-4】M10 平座金		—	4	4
【14-5】M10 バネ座金		—	2	2
【14-6】M10 袋ナット		—	2	2
【14-7】φ5×12 トラスタッピンネジ 3種 樹脂座金付		—	6	8
【14-8】 φ5×19ドリルネジ		—	2	2

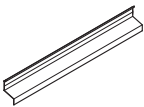
【15】壁付けブラケットセット

オプション

名 称	略 図	員 数	
		前面	側面
壁付けブラケット		2	1
柱金具		—	1
【15-1】M6×25サラ小ネジ		—	4
【15-2】M6袋ナット		—	4
【15-3】M6バネ座金		—	4
【15-4】M10×45六角ボルト		8	—
【15-5】M10平座金		8	—
【15-6】M10バネ座金		8	—

【16】水切り材

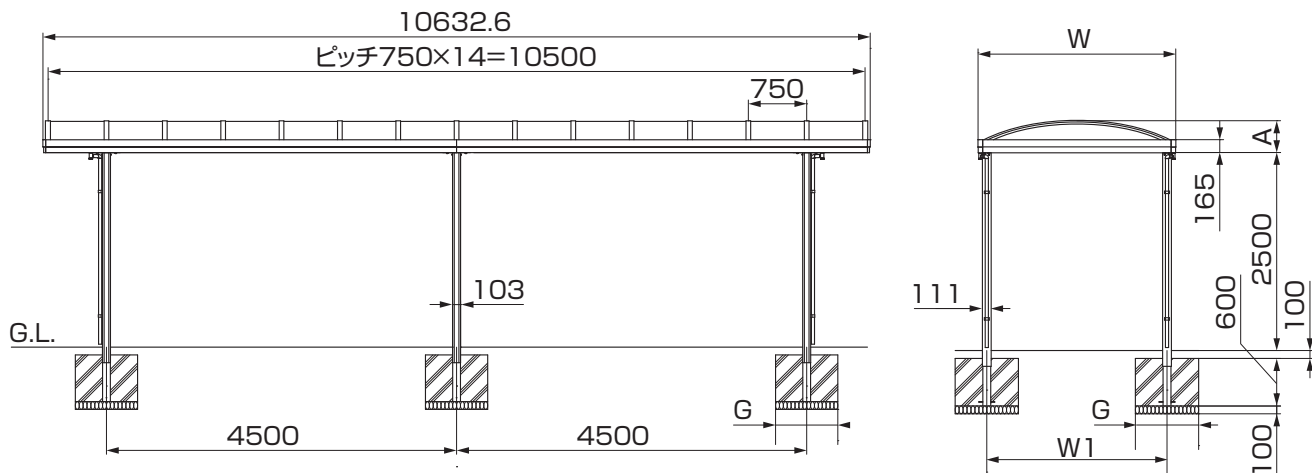
オプション

名 称	略 図	員 数		
		単独	基本	連棟
水切り材		1	2	1

1. 基本寸法図

1-1 両支持 (FX15A)

(1) 基本



(2) 単独

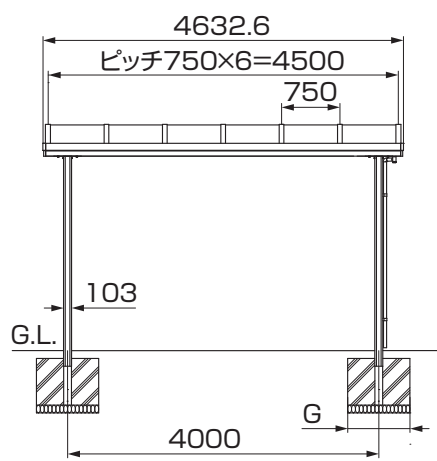
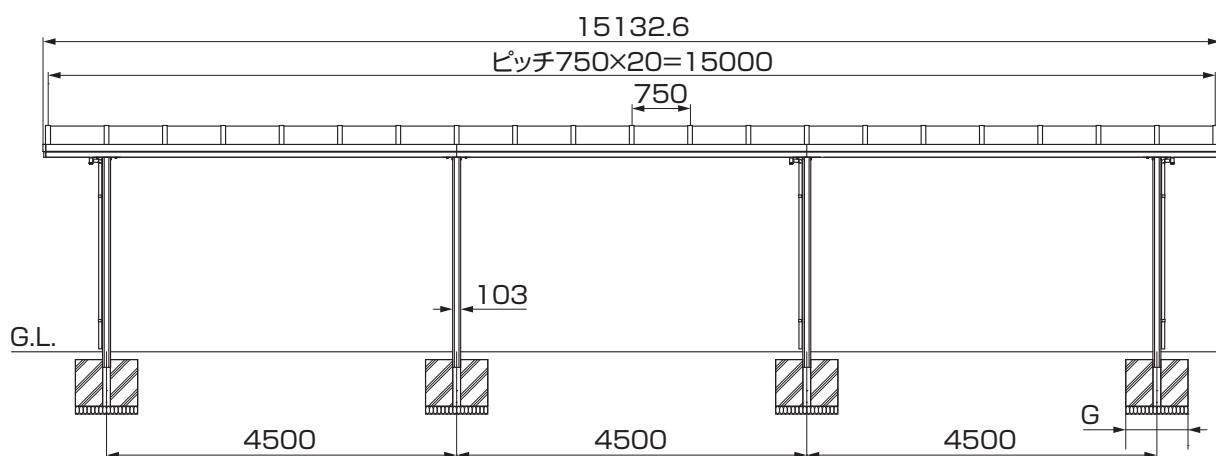


表1-1

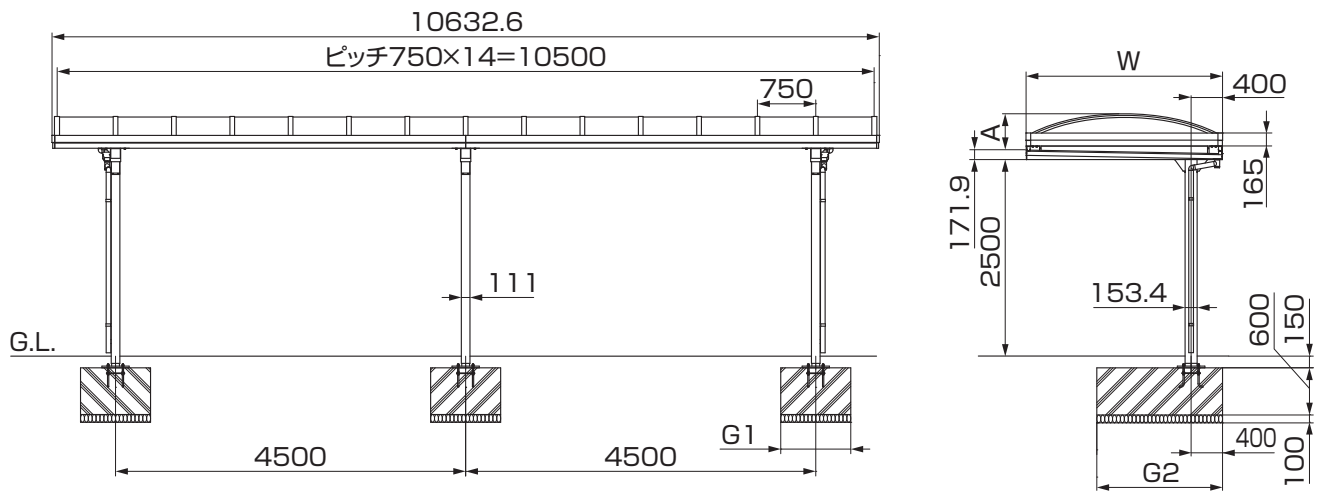
	W	W1	A	G	
				34m/s	46m/s
W20	2000	1778.8	357.4	800	900
W25	2500	2278.8	410.5		

(3) 連棟



1-2 片支持 (FX15A)

(1) 基本



(2) 単独

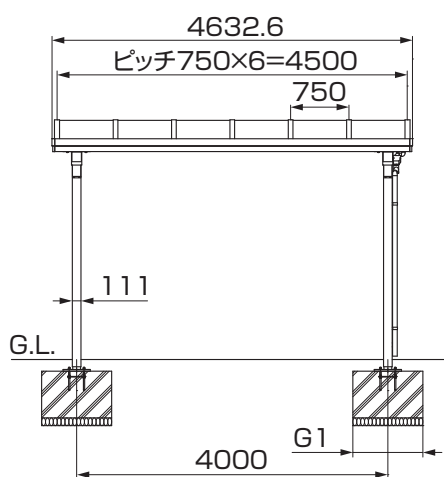
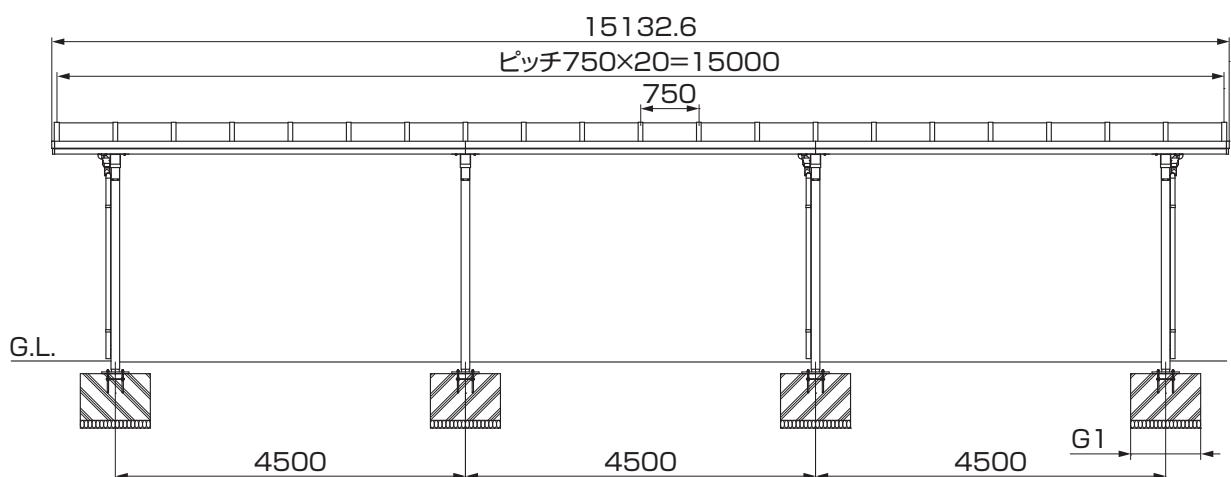


表1-2

	W	A	基準風速	G1	G2
W20	2000	357.4	34m/s	900	1600
			46m/s	1300	2000
W25	2500	410.5	34m/s	900	1600
			46m/s	1300	2000

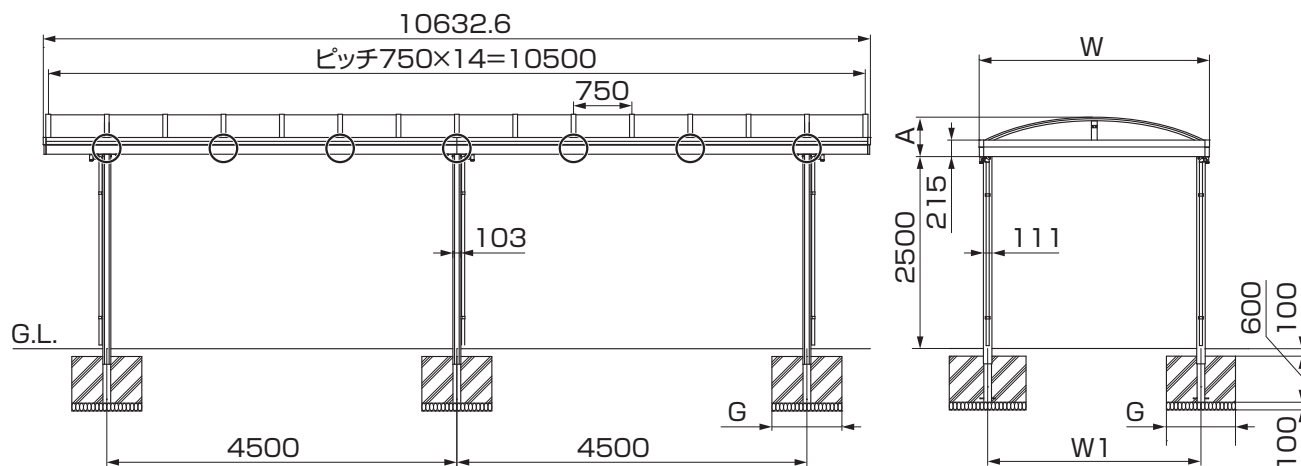
(3) 連棟



1. (つづき)

1-3 両支持ワイド (FX15A)

(1) 基本 ※○箇所に梁、束柱が取付きます。(W30は梁のみ)



(2) 単独

※○箇所に梁、束柱が取付きます。(W30は梁のみ)

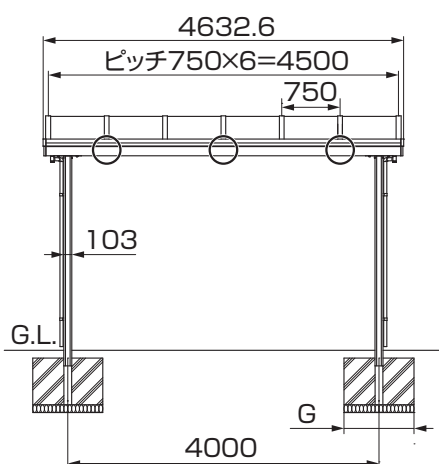
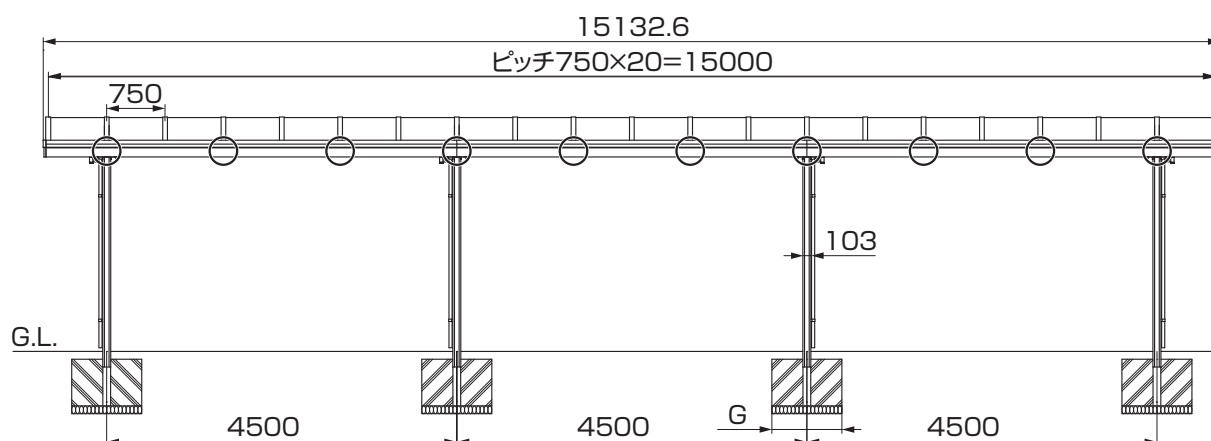


表1-3

	W	W1	A	G
W30	3000	2778.8	513.6	900
W40	4000	3778.8	619.9	1000
W50	5000	4778.8	726	1000
W60	6000	5778.8	832.3	1100

(3) 連棟 ※○箇所に梁、束柱が取付きます。(W30は梁のみ)



1-4 両支持 (FX30A)

(1) 基本 ※○箇所に梁、束柱が取付きます。(W20・25・30は梁のみ。W40は梁と束柱)

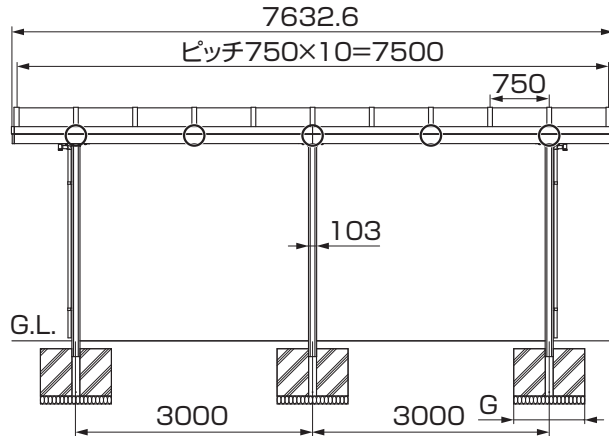
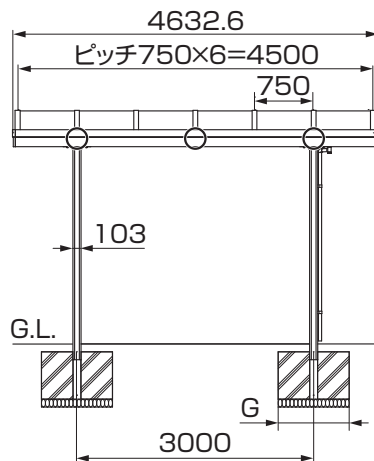


表1-4

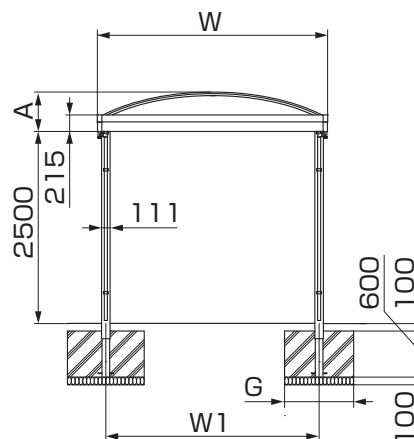
	W	W1	A	G
W20	2000	1778.8	407.4	900
W25	2500	2278.8	460.5	900
W30	3000	2778.8	513.6	1000
W40	4000	3778.8	619.9	1000

(2) 単独

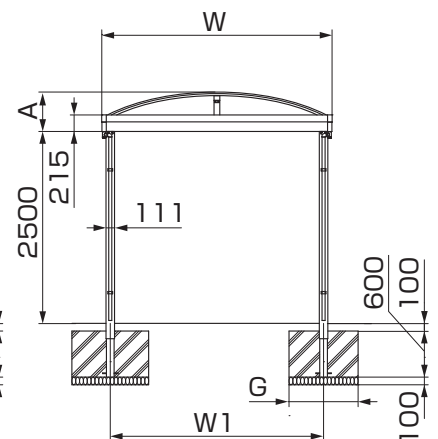
※○箇所に梁、束柱が取付きます。
(W20・25・30は梁のみ。W40は梁と束柱)



(4) 側面図

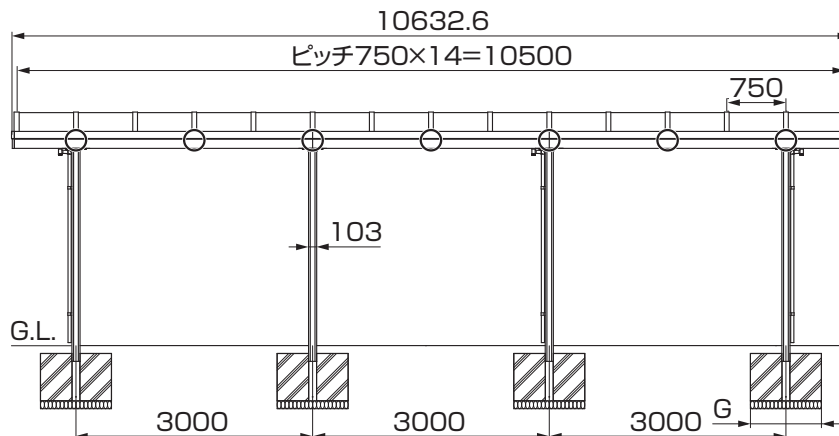


W20・25・30の場合



W40の場合

(3) 連棟 ※○箇所に梁、束柱が取付きます。(W20・25・30は梁のみ。W40は梁と束柱)



2. 基礎施工

2-1 両支持柱(FX15A)

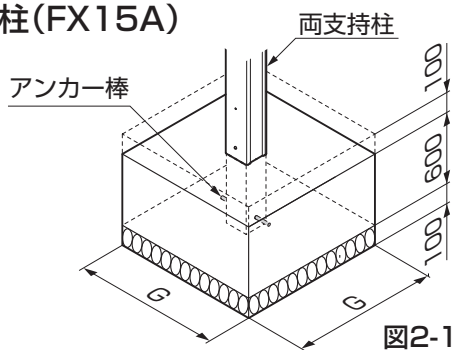


図2-1

2-2 片支持柱(FX15A)

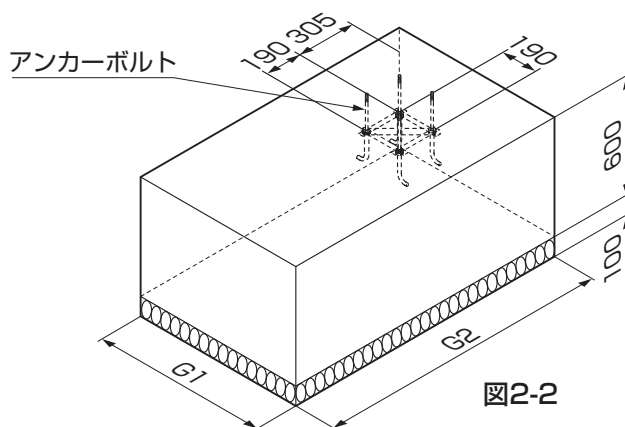


図2-2

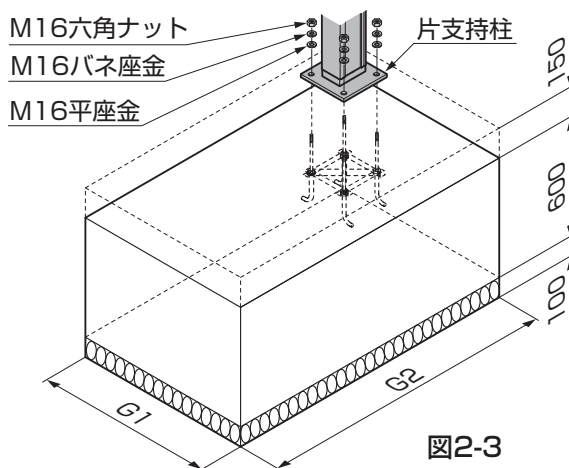


図2-3

2-3 両支持柱(FX30A)

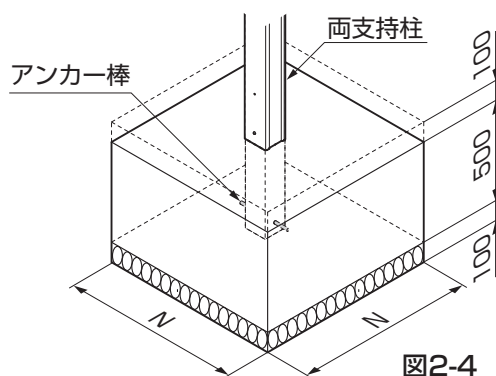


図2-4

補足

- 基礎は地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m²の時の参考寸法です。

表2-1

	G	
	34m/s	46m/s
W20・W25	800	900
W30	900	—
W40・W50	1000	—
W60	1100	—

ポイント

- アンカーボルトは別途アンカーセットで施工してください。
- アンカーボルトの施工時には、必ずアンカーセットの取付説明書をお読みください。

補足

- 基礎は地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m²の時の参考寸法です。

表2-2

基準風速	G1	G2
34m/s	900	1600
46m/s	1300	2000

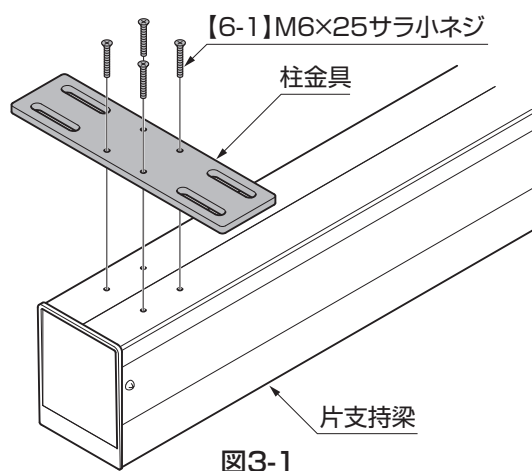
補足

- 基礎は基準風速34m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m²の時の参考寸法です。

表2-3

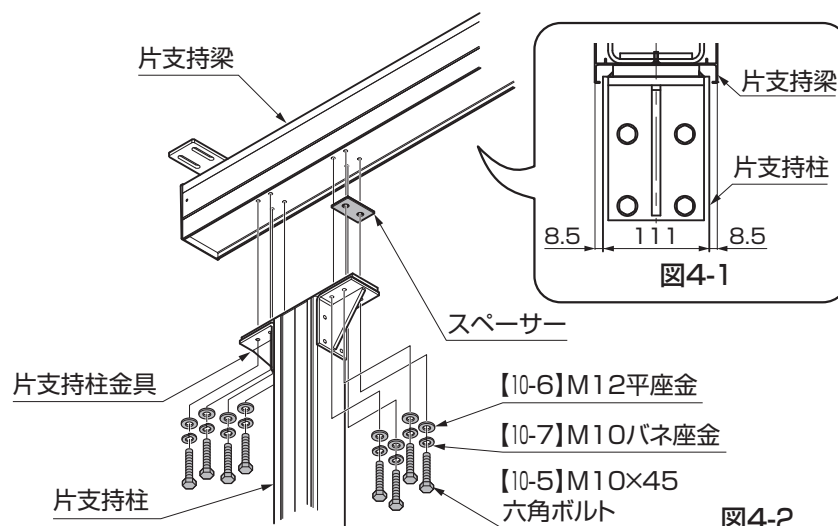
	N
W20・W25	900
W30・W40	1000

3. 柱金具の取付け



- ①片支持梁に柱金具を【6-1】で取付けてください。

4. 梁と柱の組付け



- ①片支持柱にスペーサーをテープ等で固定してください。
- ②【10-5】、【10-6】、【10-7】で片支持梁に片支持柱を取付けてください。

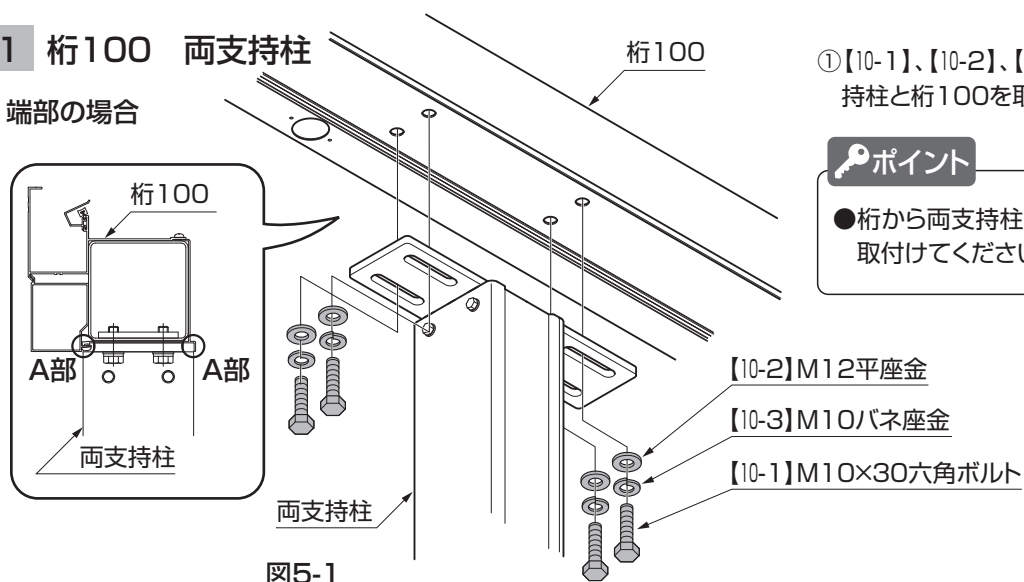
ポイント

- スペーサーは片支持柱金具および梁の内側端部の孔に合うように取付けてください。
- 片支持梁と片支持柱のセンターが合うように取付けてください。センターからずれて取付けた場合、柱力バーが取付かなくなるおそれがあります。(図4-1参照)

5. 桁と柱の取付け

5-1 桁100 両支持柱

(1) 端部の場合



- ①【10-1】、【10-2】、【10-3】で図のように両支持柱と桁100を取付けてください。

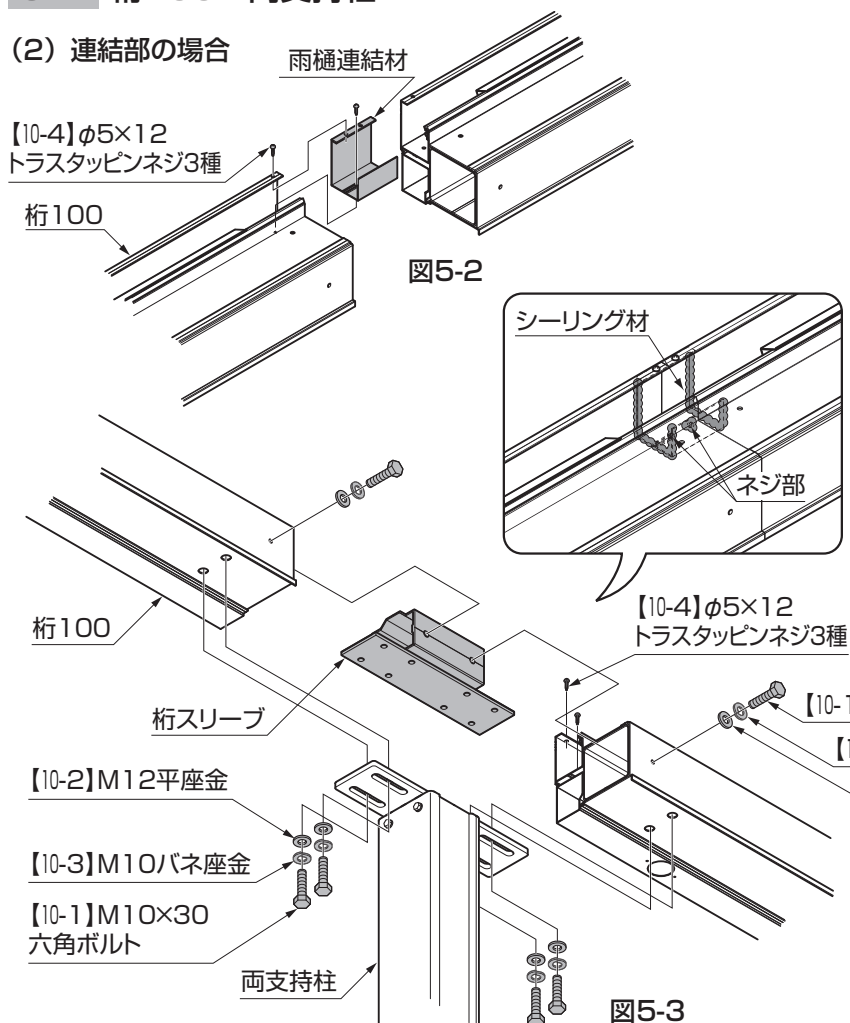
ポイント

- 桁から両支持柱がはみ出さないように取付けてください。(A部)

5. (つづき)

5-1 桁100 両支持柱

(2) 連結部の場合



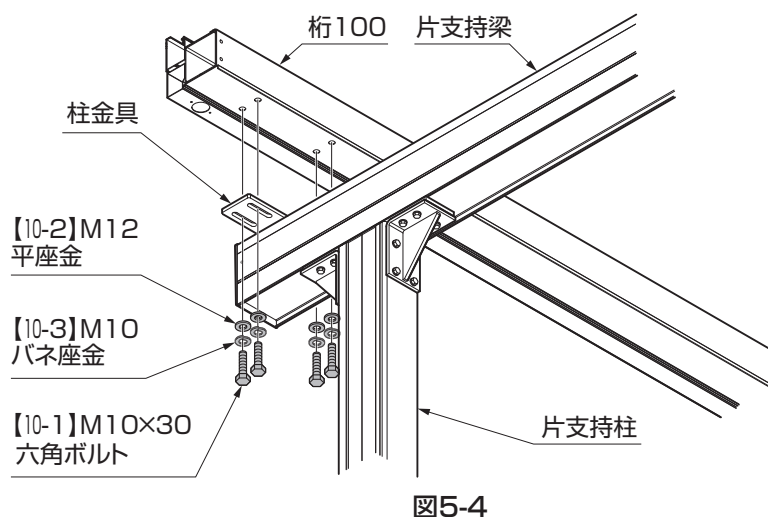
- ①一方の桁100に雨樋連結材を差込んでください。
- ②桁スリーブと両支持柱を【10-1】、【10-2】、【10-3】で一方の桁100に仮止めしてから、もう一方の桁100を差込んでください。
- ③桁と桁の間にすき間がないように【10-1】、【10-2】、【10-3】で両支持柱と桁100を取付けてください。
- ④②で仮止めした【10-1】を完全に締付けてください。
- ⑤桁100と桁スリーブを【10-1】、【10-2】、【10-3】で固定してください。
- ⑥【10-4】で雨樋連結材を固定してください。

ポイント

- 雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

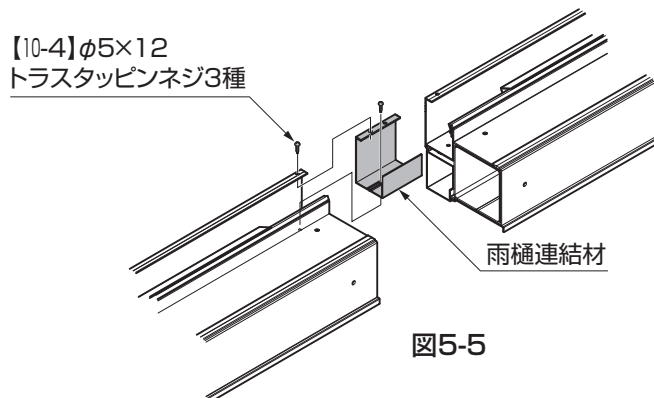
5-2 桁100 片支持柱

(1) 端部の場合



- ①片支持梁と桁100を【10-1】、【10-2】、【10-3】で図のように取付けてください。

(2) 連結部の場合



①一方の雨樋100に雨樋連結材を差込んでください。

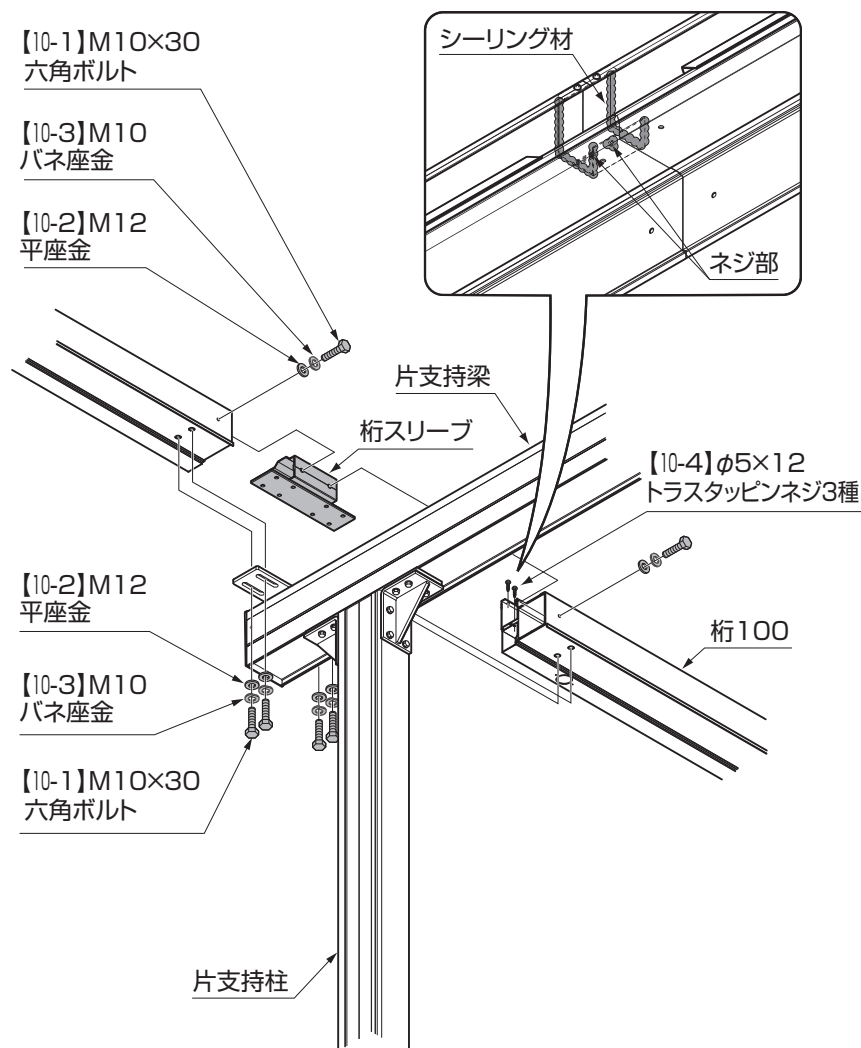
②雨樋スリーブと片支持梁を【10-1】、【10-2】、【10-3】で一方の雨樋に仮止めしてから、もう一方の雨樋を差込んでください。

③雨樋と雨樋の間にすき間がないように【10-1】、【10-2】、【10-3】で片支持梁と雨樋100を取付けてください。

④②で仮止めした【10-1】を完全に締付けてください。

⑤雨樋100と雨樋スリーブを【10-1】、【10-2】、【10-3】で固定してください。

⑥【10-4】で雨樋連結材を固定してください。



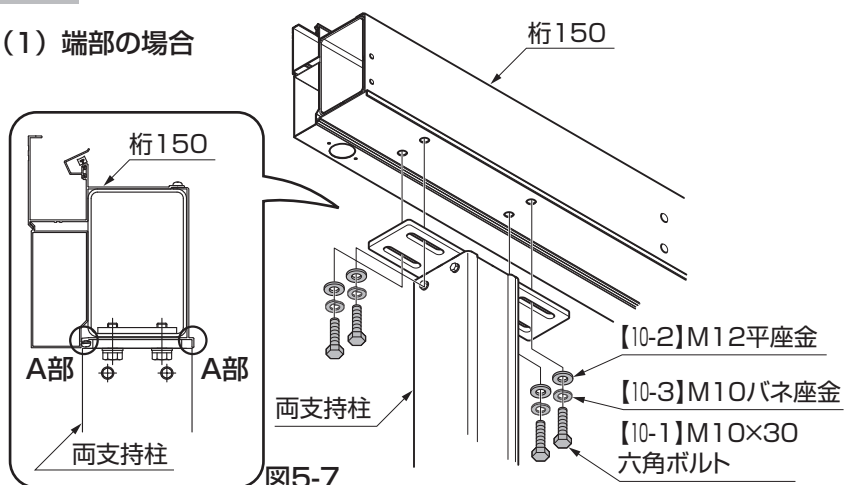
ポイント

- 雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

5. (つづき)

5-3 桁150 両支持柱

(1) 端部の場合

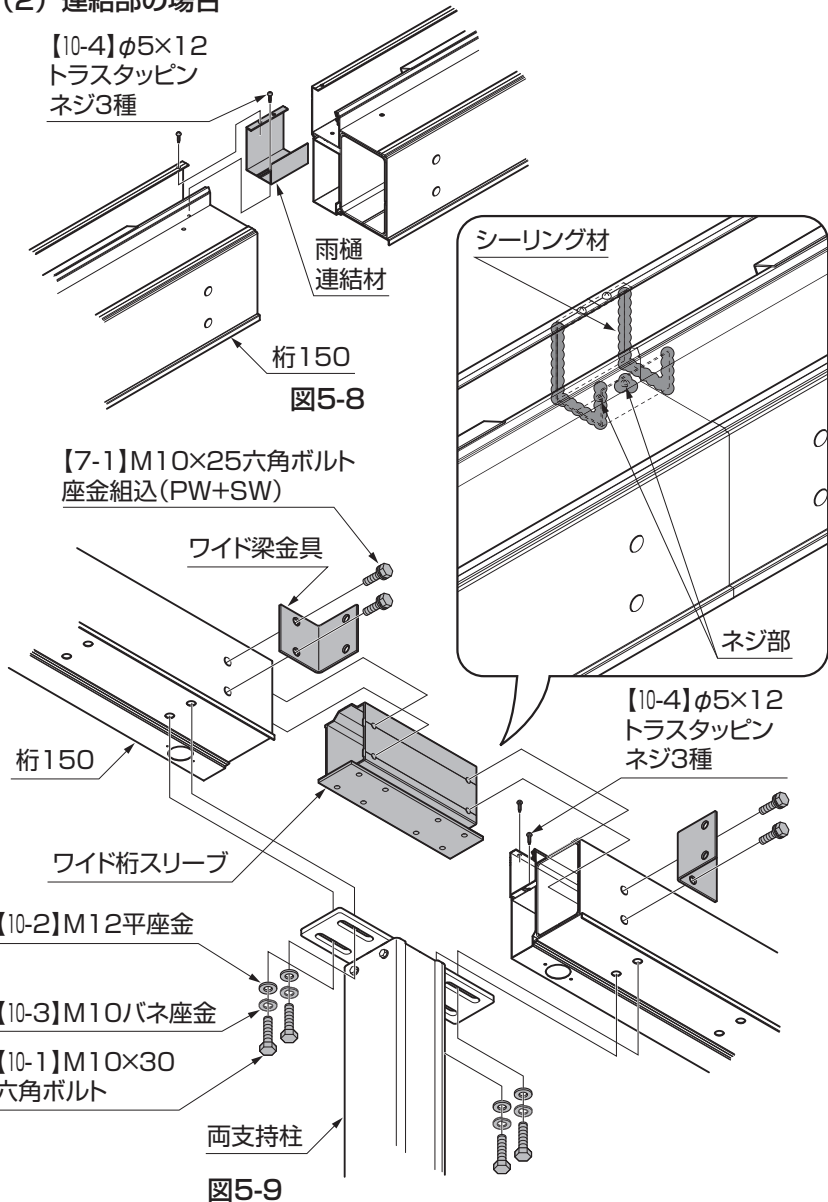


- ① 【10-1】、【10-2】、【10-3】で図のように桁150と両支持柱を取付けてください。

ポイント

- 桁から両支持柱がはみ出さないように取付けてください。(A部)

(2) 連結部の場合



- ① 一方の桁150に雨樋連結材を差込んでください。

- ② ワイド桁スリーブを一方の桁150に入れ、桁150と両支持柱を【10-1】、【10-2】、【10-3】で仮止めしてから、もう一方の桁150を差込んでください。
- ③ 桁と桁の間にすき間がないように【10-1】、【10-2】、【10-3】で両支持柱と桁150を取付けてください。
- ④ 仮止めしたボルトを完全に締付けてください。
- ⑤ 桁にワイド梁金具とワイド桁スリーブを【7-1】で固定してください。
- ⑥ 【10-4】で雨樋連結材を固定してください。

ポイント

- 雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

6. 両支持梁の取付け(FX15A W30~W60, FX30Aの作業)

※連結の場合は柱・桁の取付け時に
行ってください。

6-1 両支持梁の取付け ※図は連結部です。

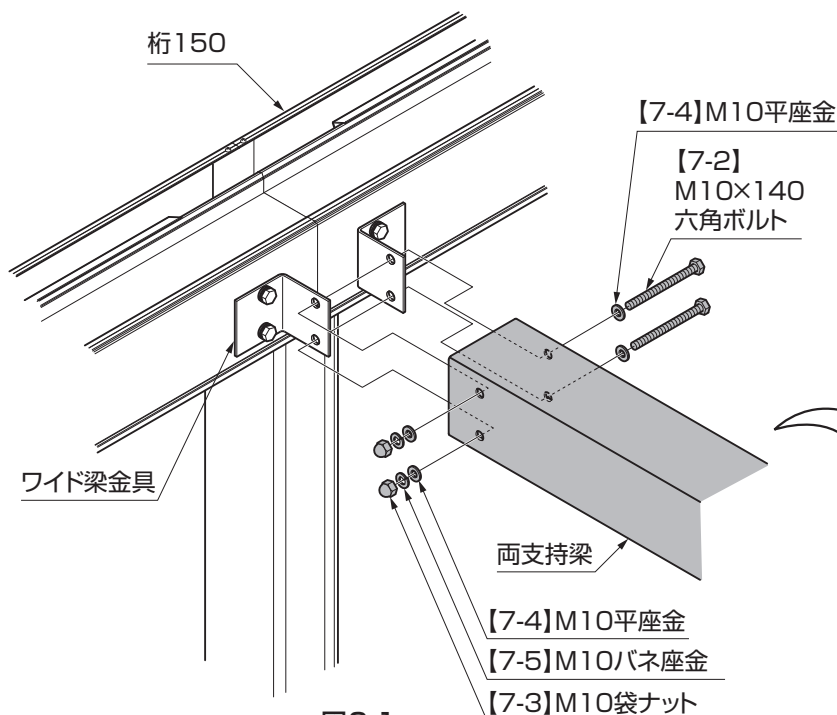
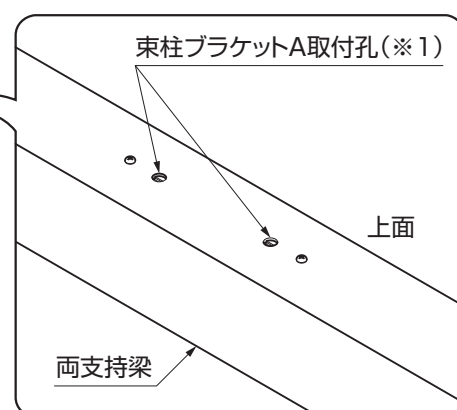


図6-1

- ①【7-2】、【7-3】、【7-4】、【7-5】でワイド梁金具と両支持梁を固定してください。

ポイント

- W40~W60の両支持梁は束柱ブラケットA取付孔(※1)があいている方が上面です。



6-2 束柱の取付け(W40~W60の作業)

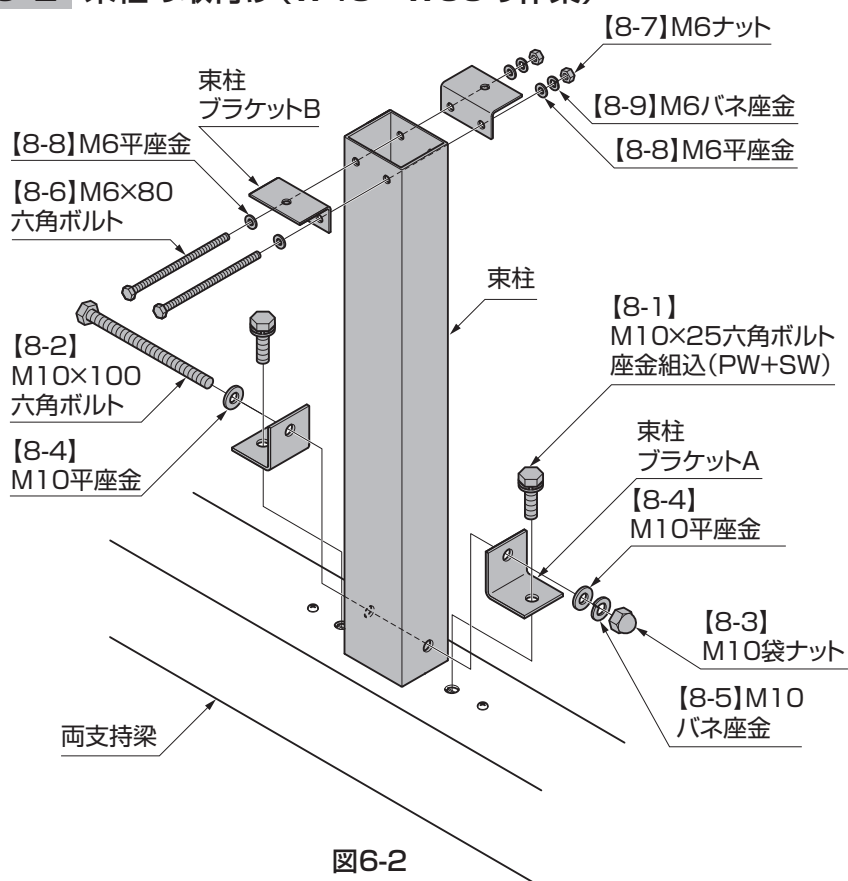


図6-2

- ①両支持梁に束柱ブラケットAを【8-1】で取付けてください。
②【8-2】、【8-3】、【8-4】、【8-5】で束柱ブラケットAに束柱を取付けてください。
③束柱に束柱ブラケットBを【8-6】、【8-7】、【8-8】、【8-9】で取付けてください。

6. (つづき)

6-3 棟木の取付 ※図は連結部の場合です。

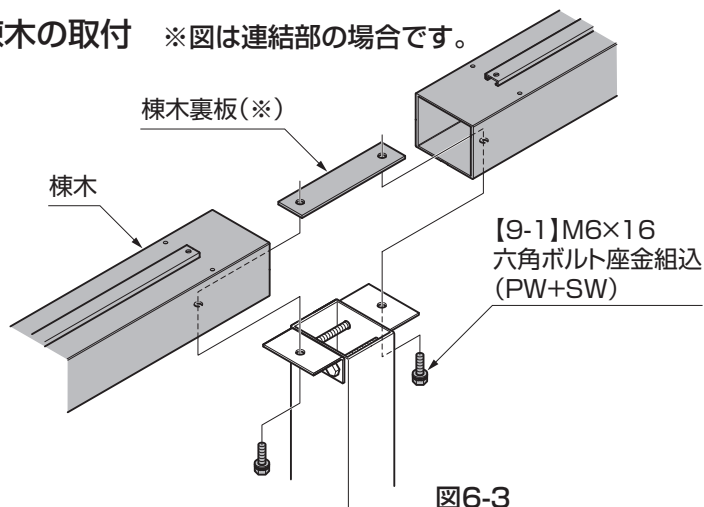


図6-3

ポイント

●連結部の場合は棟木裏板を取付けてください(※)。

①棟木を【9-1】で束柱に取付けてください。

7. 前枠と桁の取付け

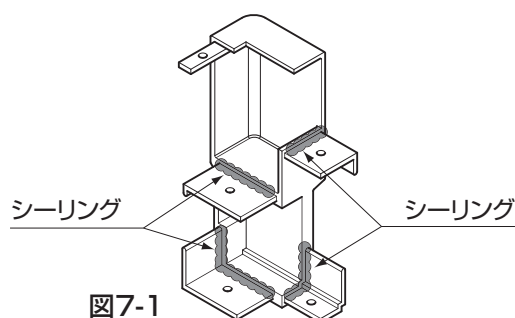


図7-1

- ①コーナーキャップにシーリングしてください。(図7-1参照)
- ②コーナーキャップを【11-7】で前枠に固定してください。
- ③②を桁側に差込み、前枠と桁を【11-2】で取付けてください。
- ④桁とコーナーキャップを【11-7】で固定してください。

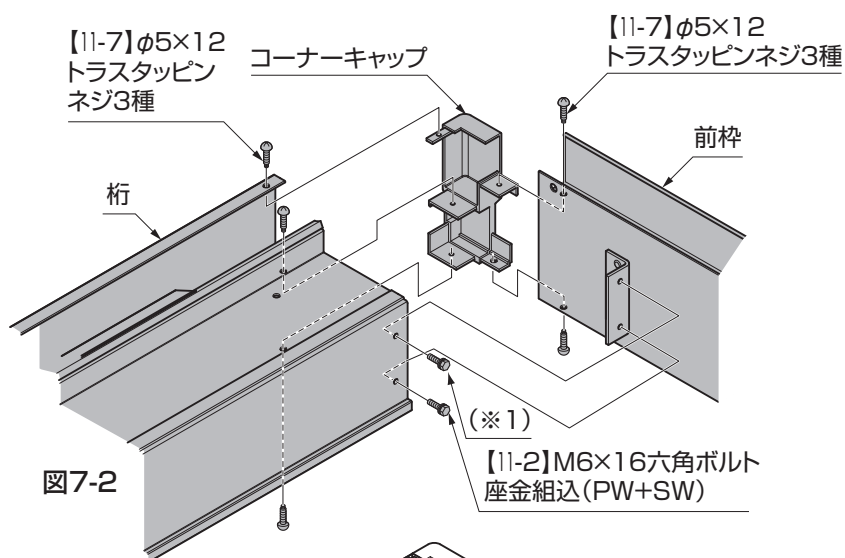


図7-2

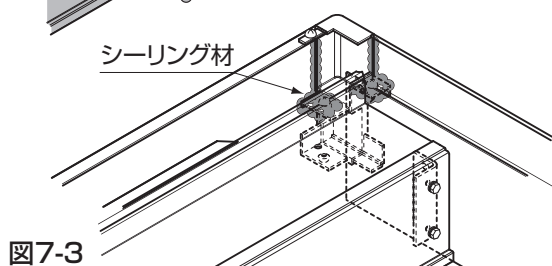


図7-3

ポイント

- コーナーキャップの周囲とネジ部をシーリングしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。
- コーナーキャップには左右があります。
- 桁と前枠が直角に組付いているか確認してください。
- W30～W60の前面パネルを取付ける場合は、(※1)を締めつけずに、仮止めとしてください。

8. アーチの取付け

8-1 中間アーチの取付け

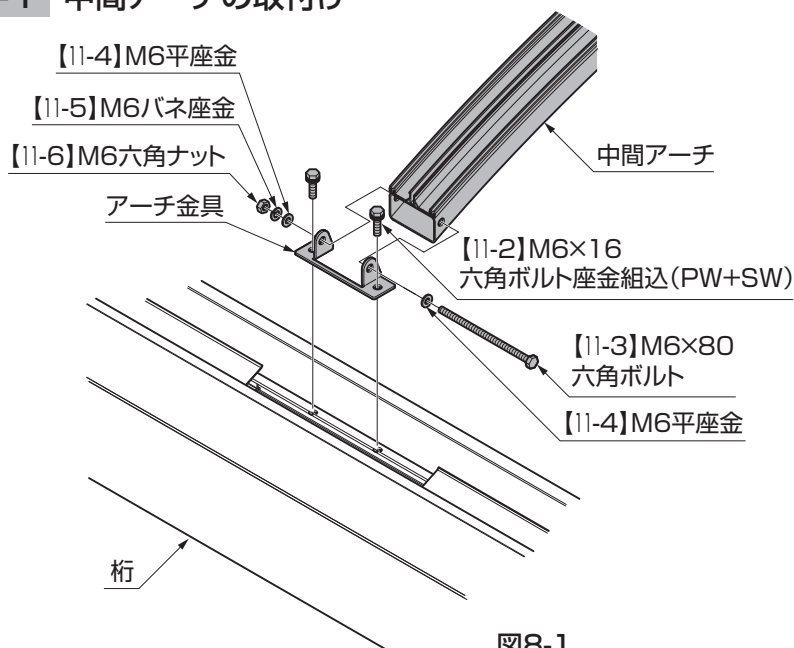


図8-1

- ①アーチ金具を【11-2】で桁に取付けてください。
- ②中間アーチをアーチ金具に【11-3】、【11-4】、【11-5】、【11-6】で取付けてください。

ポイント

- アーチと桁の直角度がでないと屋根材の取付けが困難になります。
- アーチ金具の取付け方向に注意してください。

8-2 端部アーチの取付け

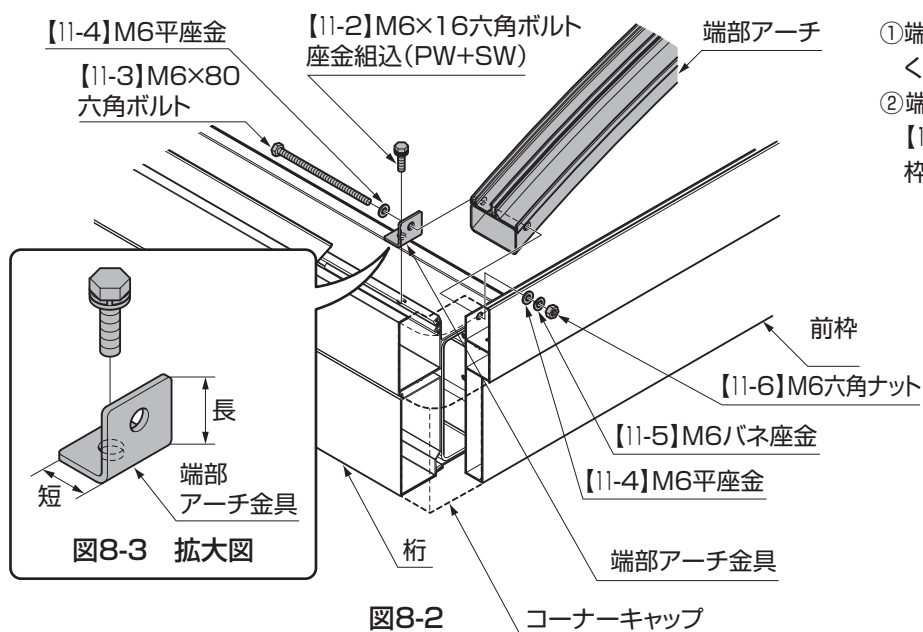


図8-2

- ①端部アーチ金具を【11-2】で桁に取付けてください。
- ②端部アーチを【11-3】、【11-4】、【11-5】、【11-6】で図のように端部アーチ金具と前枠に取付けてください。

8-3 アーチと棟木の取付け

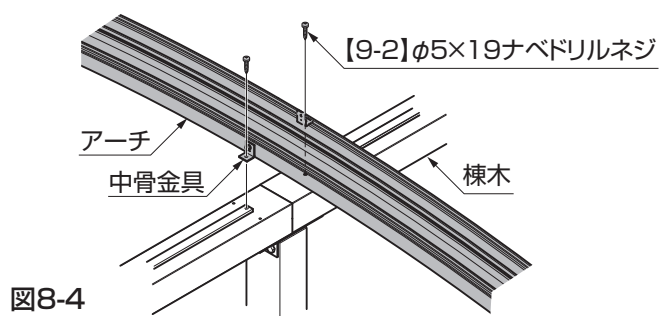
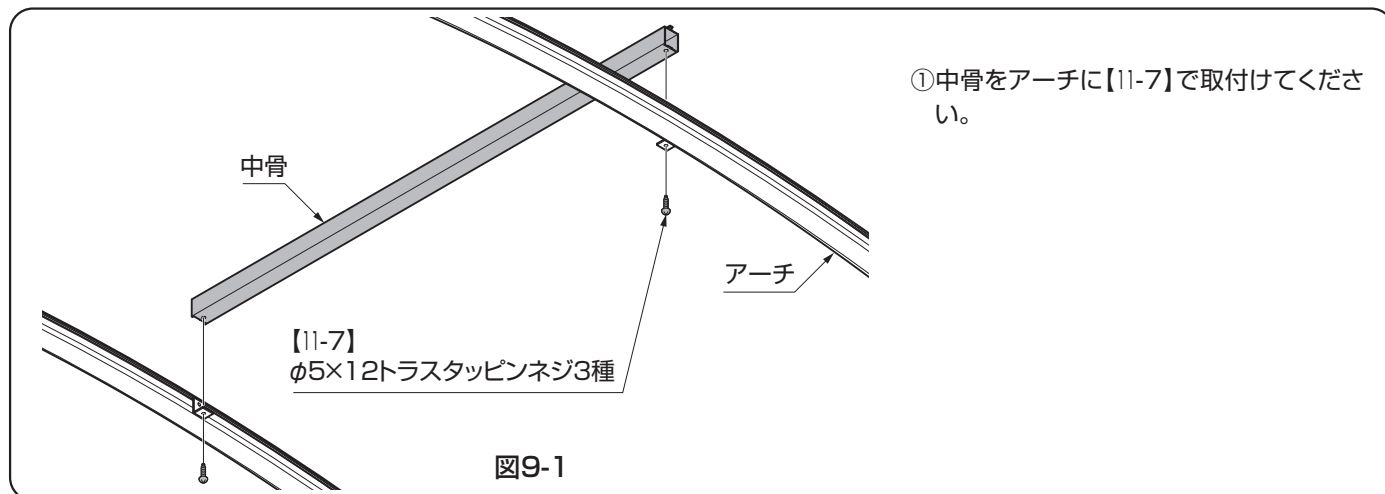


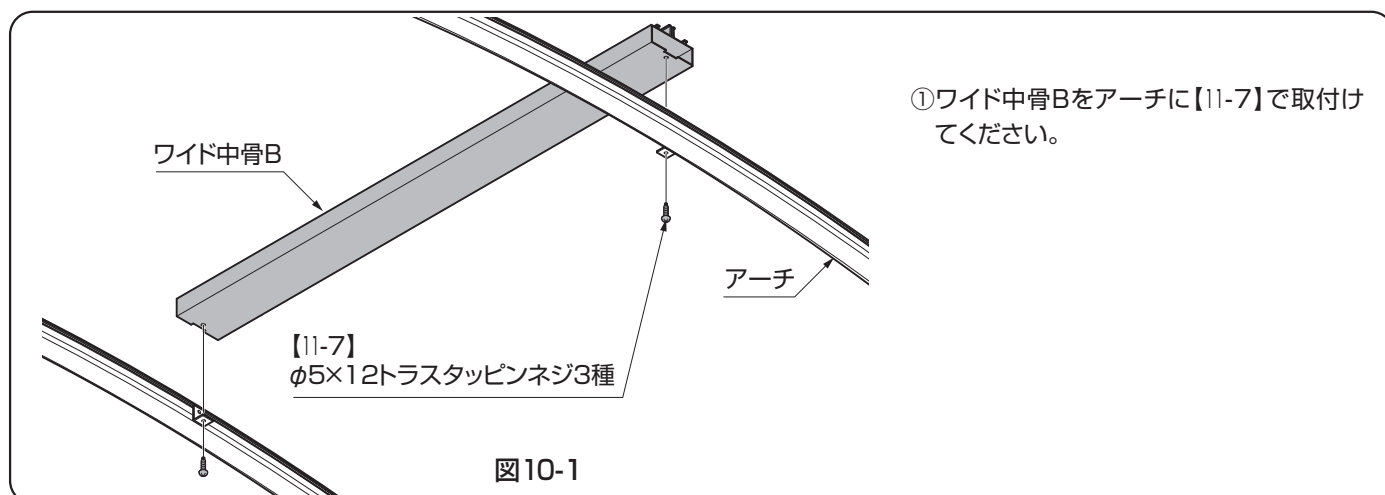
図8-4

- ①W40～W60の時は、アーチ中央の中骨金具を【9-2】で棟木にアーチを取付けてください。

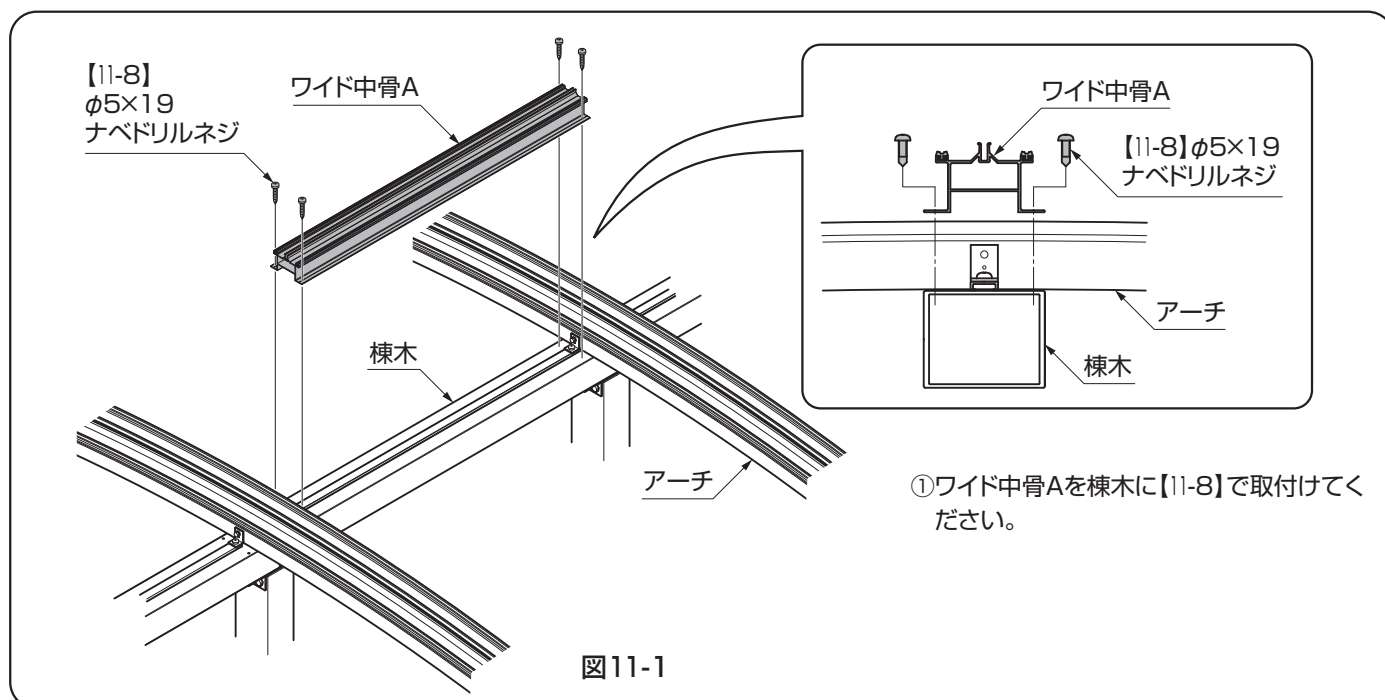
9. 中骨の取付け



10. ワイド中骨Bの取付け ※W30、W60の場合の作業です。



11. ワイド中骨Aの取付け ※W40、W50の場合の作業です。



12. 柱カバーの取付け ※片支持柱の場合の作業です。

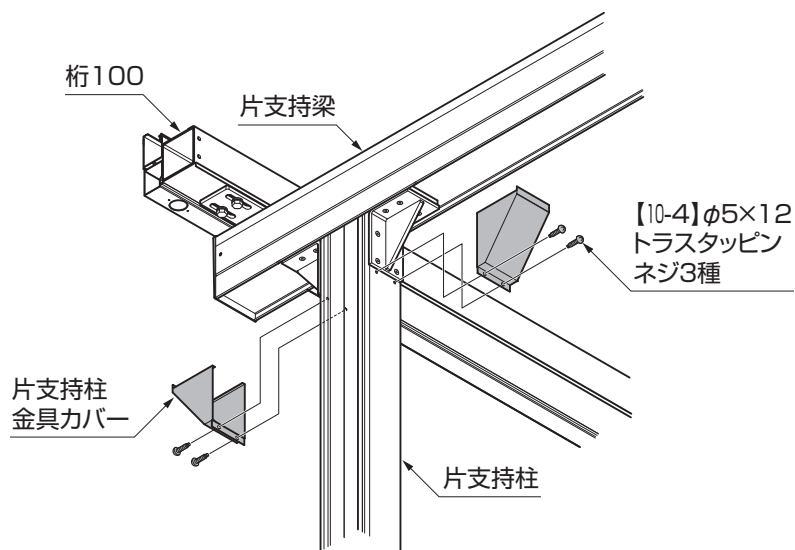
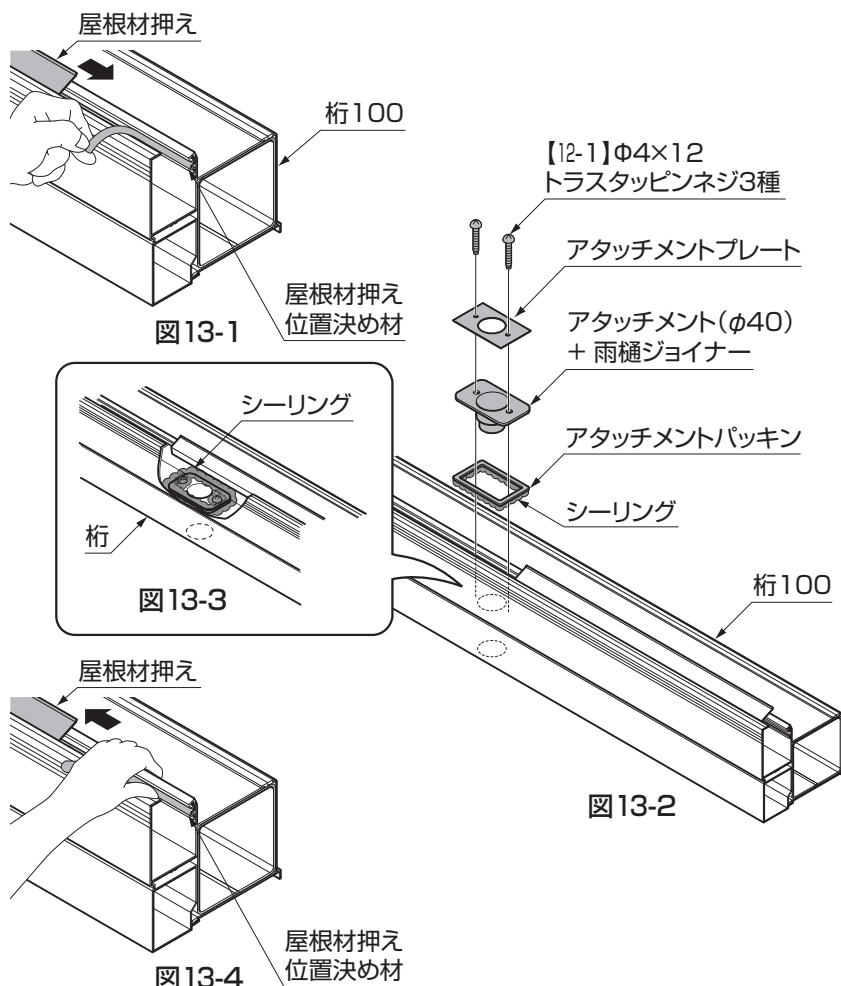


図12-1

- ①片支持柱金具カバーを片支持柱に【10-4】で取付けてください。

13. 縦樋の取付け

13-1 両支持・両支持ワイドの場合 ※図は両支持です。



ポイント

- アタッチメント取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲とアタッチメントプレートの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図13-3参照)

- ①アタッチメント、雨樋ジョイナーを接着剤で接合してください。
- ②桁に①が取り付けずらい場合は、屋根材押え位置決め材を外し、屋根材押えをずらしてください。(図13-1参照)
- ③①とアタッチメントパッキン、アタッチメントプレートを【12-1】で桁に取付けてください。
- ④アタッチメントプレートの回りにシーリングしてください。
- ⑤ずらした屋根材押えを元の位置に戻してください。(図13-4参照)
- ⑥外した屋根材押え位置決め材を取付けてください。

13. (つづき)

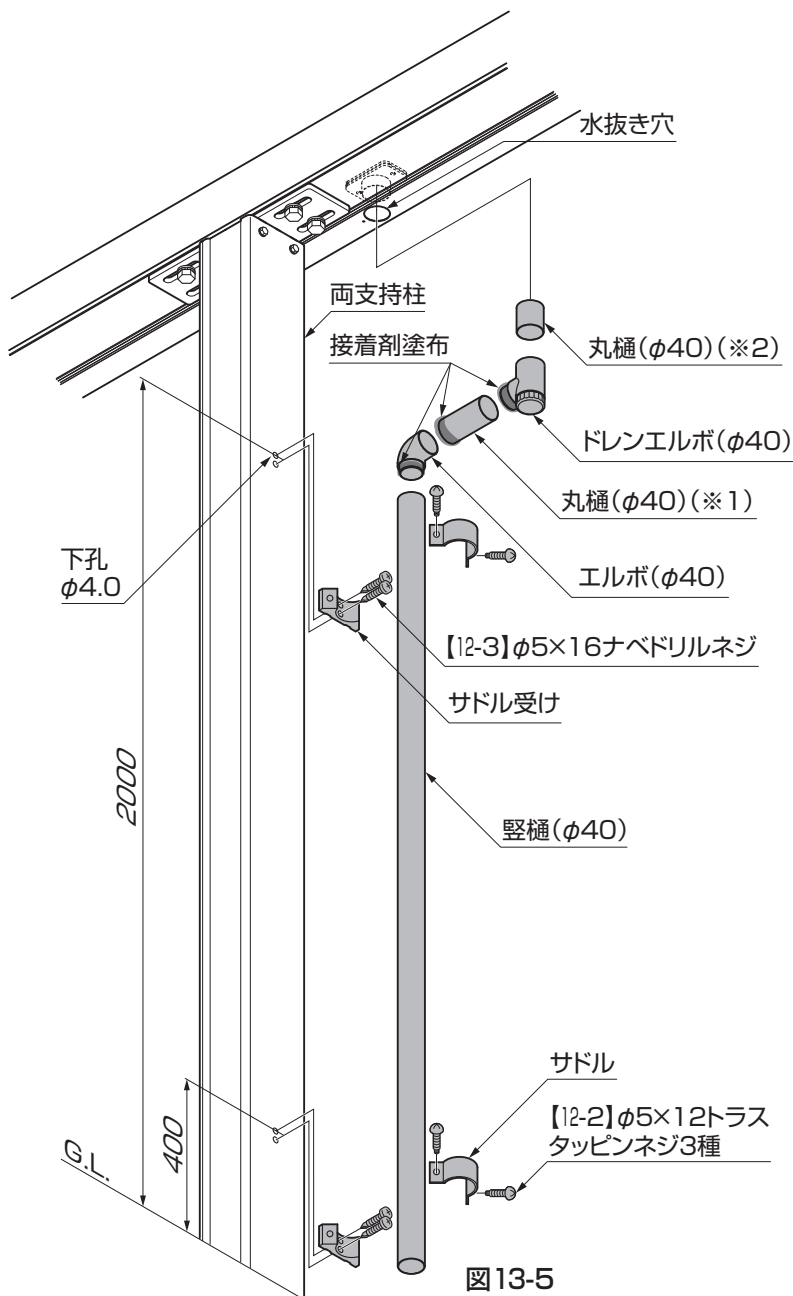


図13-5

⑦丸樋(※2)を桁100の場合は60mm、桁150の場合は110mmにカットしてください。

⑧⑦を桁の水抜き孔にさしこみ、①で取付けたアタッチメントと接合してください。

⑨ドレンエルボ(φ40)、丸樋(φ40)、エルボ(φ40)の順に接着剤で接合してください。

⑩両支持柱に下穴φ4.0をあけ、【12-3】でサドル受けを取付けてください。

⑪【12-2】でサドルと縦樋(φ40)をサドル受けに取付けてください。

ポイント

- サドル受けはG.L.から400mmと2000mmの位置に固定してください。
- 丸樋は現場に合わせて切詰めてください。(※1)

孔ふさぎプレートの取付け

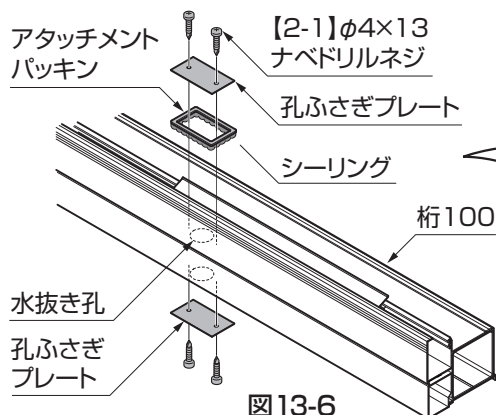


図13-6

⑫アタッチメントを取付けない桁の水抜き孔は、アタッチメントパッキンと孔ふさぎプレートを【2-1】で取付けてください。(図13-6参照)

⑬アタッチメントパッキンの周囲をシーリングしてください。(図13-7参照)

ポイント

- 孔ふさぎプレート取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図13-7参照)

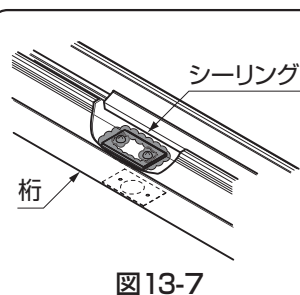
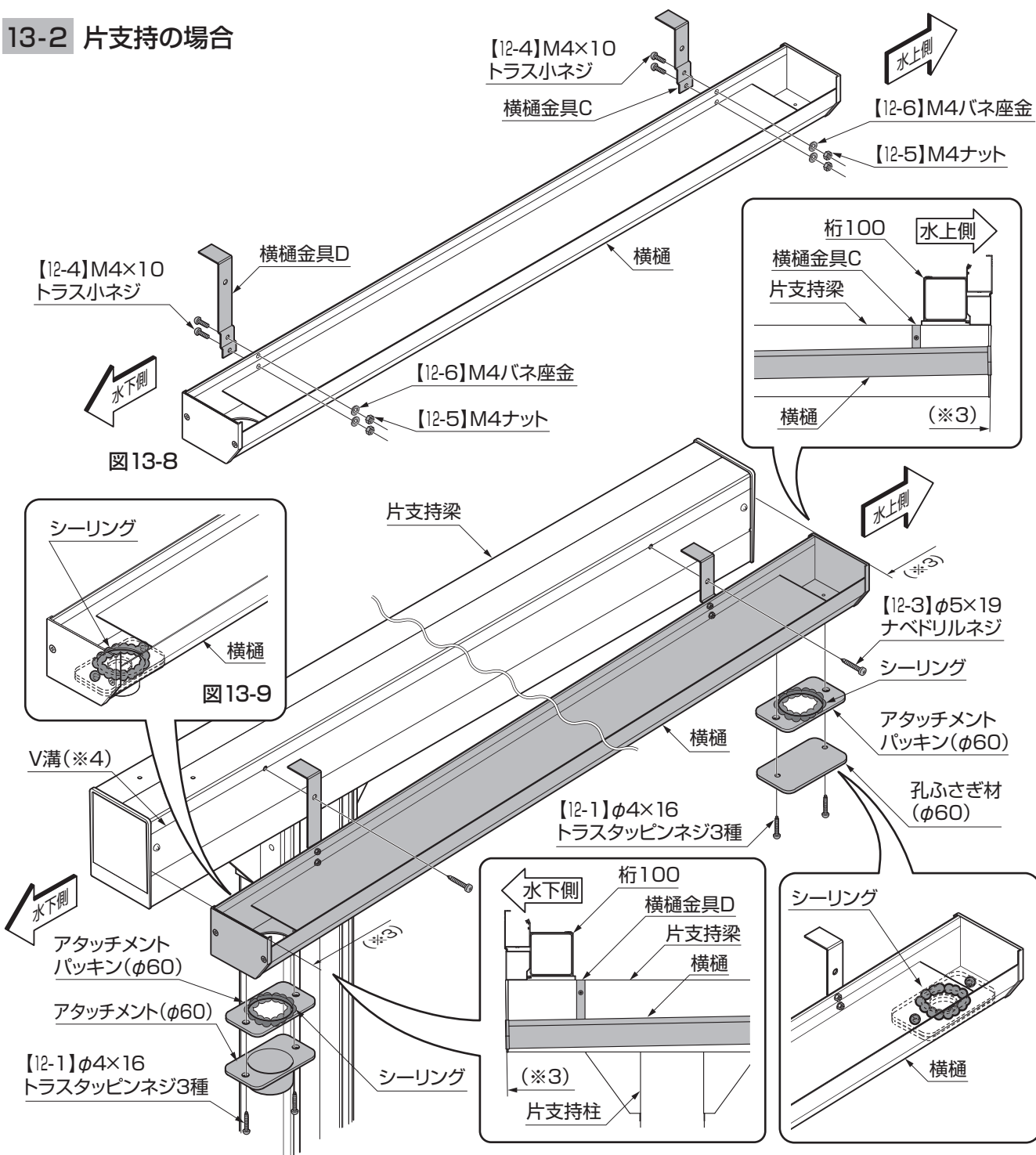


図13-7

13-2 片支持の場合



- ①横樋の水下側に横樋金具Dを、水上側に横樋金具Cを【I2-4】、【I2-5】、【I2-6】で取付けてください。(図I3-8参照)
- ②アタッチメントパッキンの孔の周囲にシーリングして、水下側にアタッチメント(φ60)、水上側に孔ふさぎ材(φ60)を【I2-1】で取付けてください。
- ③横樋金具を梁に確実にのせ、片支時梁のV溝(※4)に【I2-3】で横樋を取付けてください。その際、横樋と梁の端面は同じになります。(※3)

ポイント

- アタッチメントまたは孔ふさぎ材取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図13-9参照)

13. (つづき)

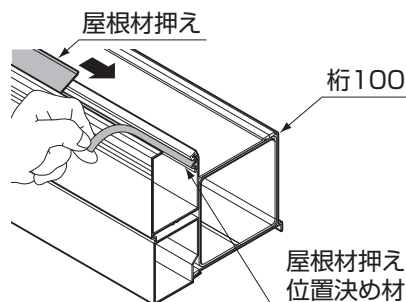


図13-10

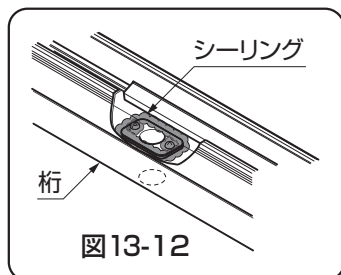


図13-12

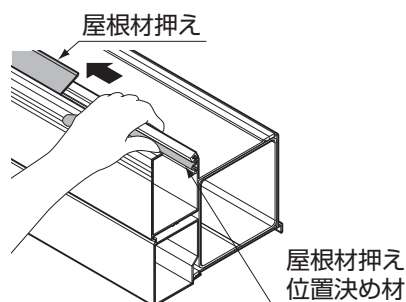


図13-13

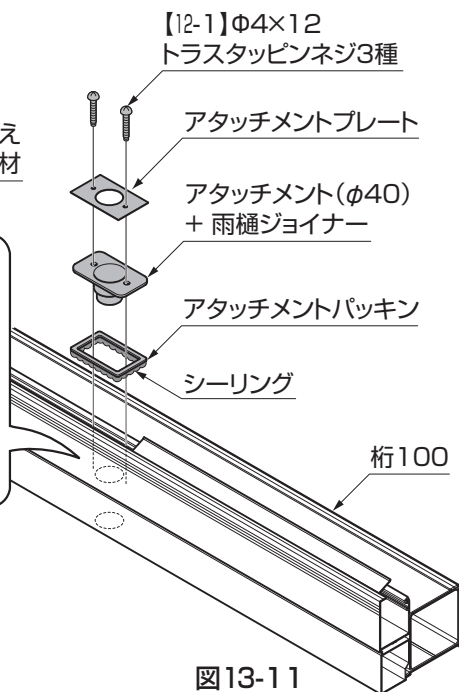


図13-11

- ④ アタッチメント、雨樋ジョイナーを接着剤で接合してください。
- ⑤ 桁に④が取付けづらい場合は、屋根材押え位置決め材を外し、屋根材押えをずらしてください。(図13-10参照)
- ⑥ ④とアタッチメントパッキン、アタッチメントプレートを【12-1】で取付けてください。
- ⑦ アタッチメントプレートの回りにシーリングしてください。
- ⑧ ずらした屋根材押えを元の位置に戻してください。(図13-13参照)
- ⑨ 外した屋根材押え位置決め材を取付けてください。

ポイント

- アタッチメント取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲とアタッチメントプレートの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図13-12参照)

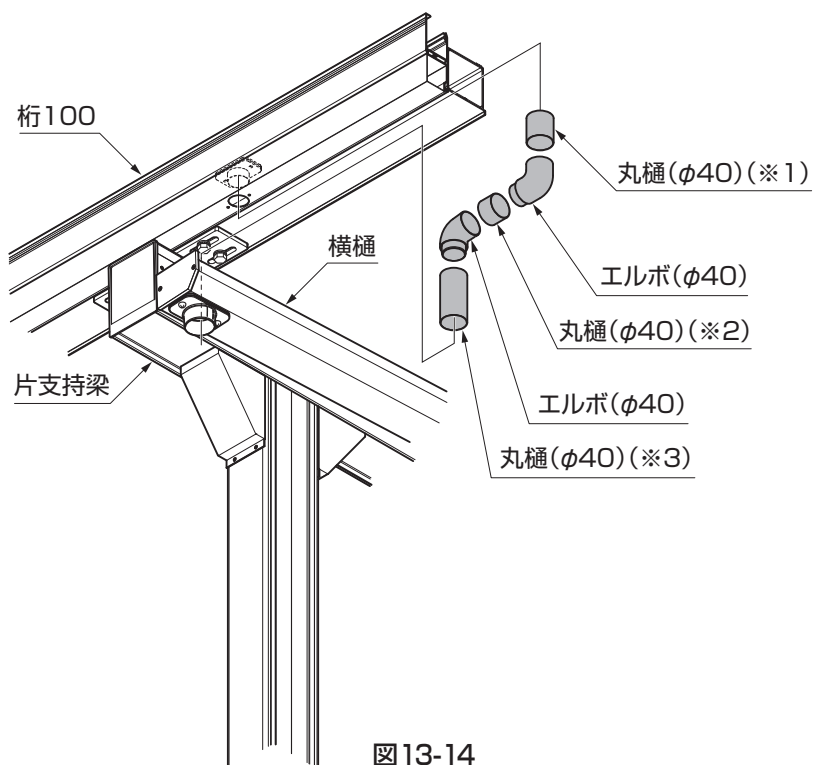


図13-14

- ⑩ 丸樋(※1)を桁100の場合は60mm、桁150の場合は110mmにカットしてください。
- ⑪ ⑩を桁の水抜き孔にさしこみ、④で取付けたアタッチメントと接合してください。
- ⑫ エルボ(φ40)、丸樋(φ40)、エルボ(φ40)、丸樋(φ40)の順で図のように接合し、丸樋の先を横樋の中に入れてください。その際、接合部は接着剤で固定してください。

ポイント

- 丸樋は現場に合わせて切詰めてください。(※2)
- (※3)の丸樋は水下側のみ取付けてください。水上側は必要ありません。

13. (つづき)

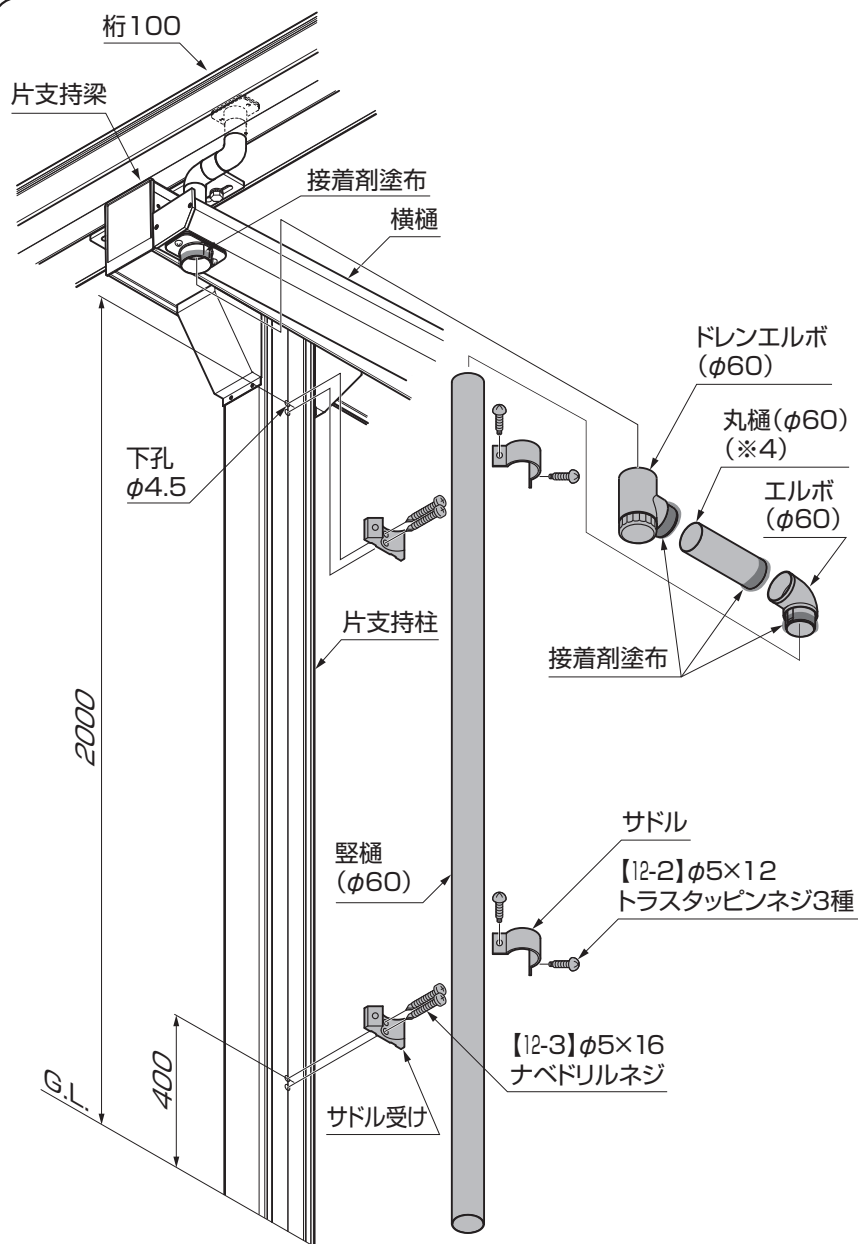


図13-15

ポイント

- 丸樋は現場に合わせて切詰めてください。(※4)
- サドル受けはG.L.から400mmと2000mmの位置に固定してください。

- ⑭アタッチメントに、ドレンエルボ(φ60)、丸樋(φ60)、エルボ(φ60)、縦樋(φ60)の順で接合してください。その際、接合部は接着剤で固定してください。
- ⑮片支持柱に下孔φ4.5をあけ、【12-3】でサドル受けを取付けてください。
- ⑯【12-2】でサドルと縦樋(φ60)をサドル受けに取付けてください。

孔ふさぎプレートの取付け

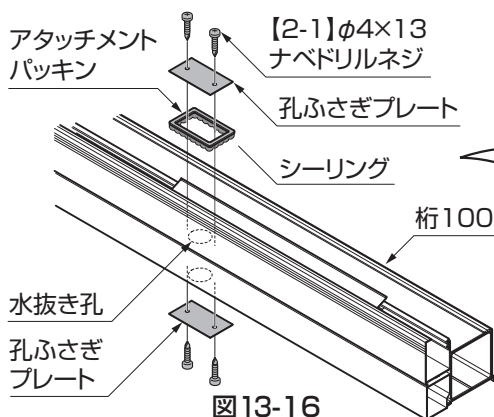


図13-16

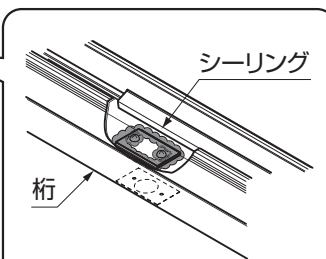


図13-17

- ⑰アタッチメントを取付けない桁の水抜き孔は、アタッチメントパッキンと孔ふさぎプレートを【2-1】で取付けてください。(図13-16参照)
- ⑱アタッチメントパッキンの周囲をシーリングしてください。(図13-17参照)

ポイント

- 孔ふさぎプレート取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図13-17参照)

14. 屋根材の取付け

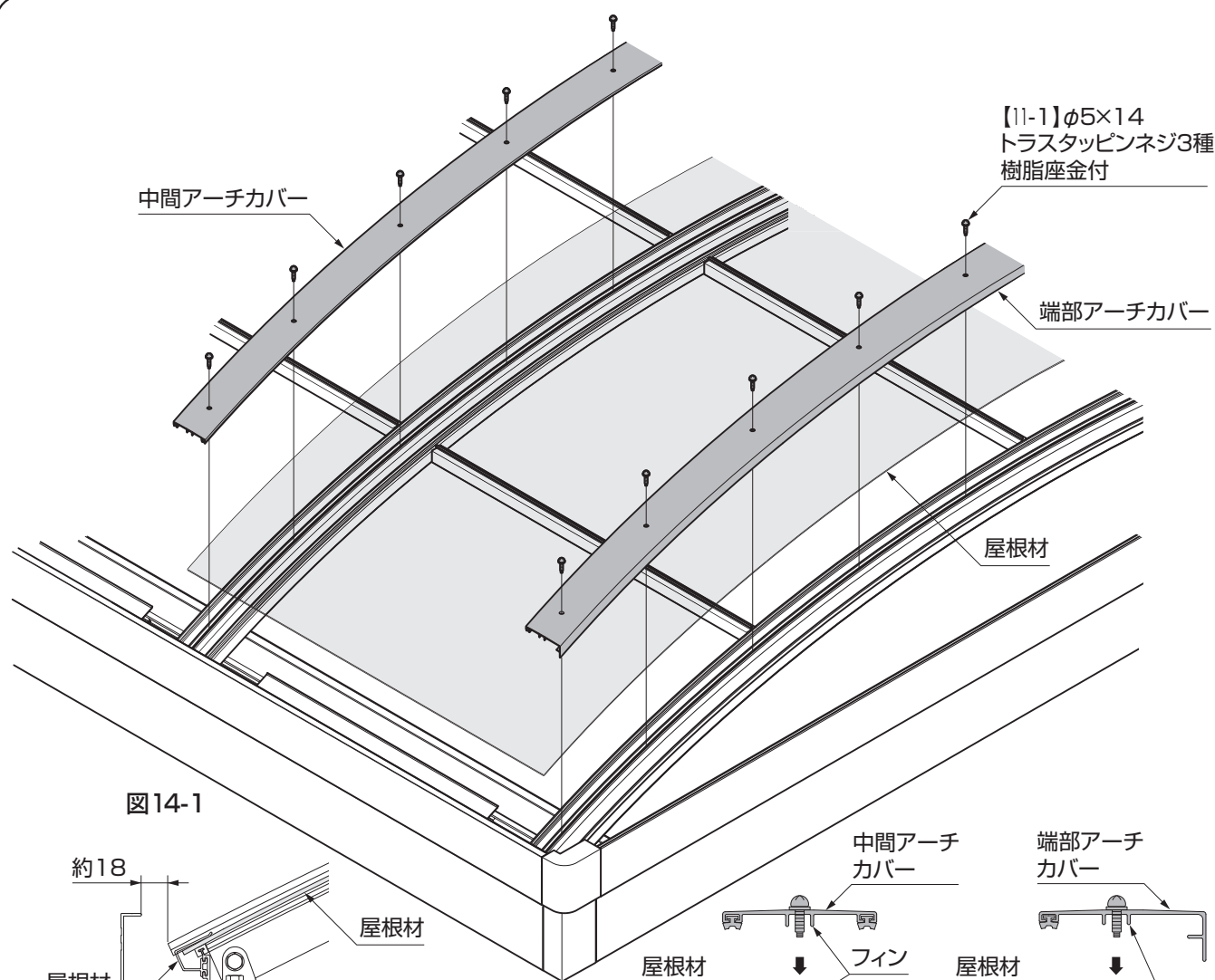


図14-1

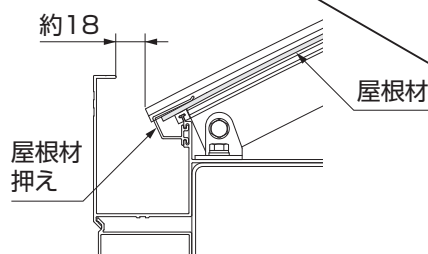


図14-2 屋根材納まり

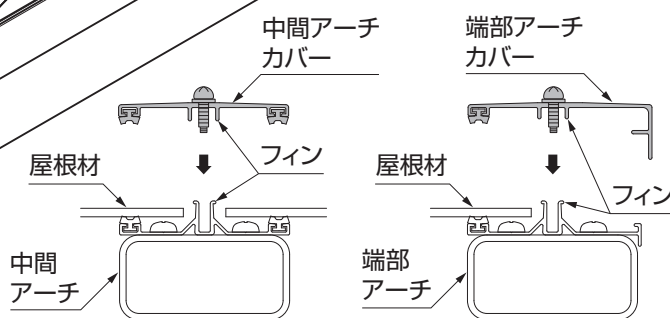


図14-3 中間アーチ断面図

図14-4 端部アーチ断面図

⚠ 注意

- 屋根材のエッジで手を切らないように、保護具をつけてから取付け作業を行ってください。

🔑 ポイント

- 屋根材(ポリカーボネート)には裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 屋根材に保護シートがついている場合は、はがしてください。

- ① 屋根材を前後左右均等にアーチに乗せてください。

🔑 ポイント

- 屋根材の縁がアーチのフィンに当たらないようにしてください。アーチカバーが取付けられなくなります。
- 桁と屋根材押えとのすき間に屋根材を差込んでください。(図14-2参照)

- ② アーチのフィンと屋根材の間に、アーチカバーのフィンを差込んでください。
- ③ 【11-1】でアーチカバーをアーチの中央から、桁に向かって順番に取付けてください。

15. 前面パネル(W20~30) **オプション**

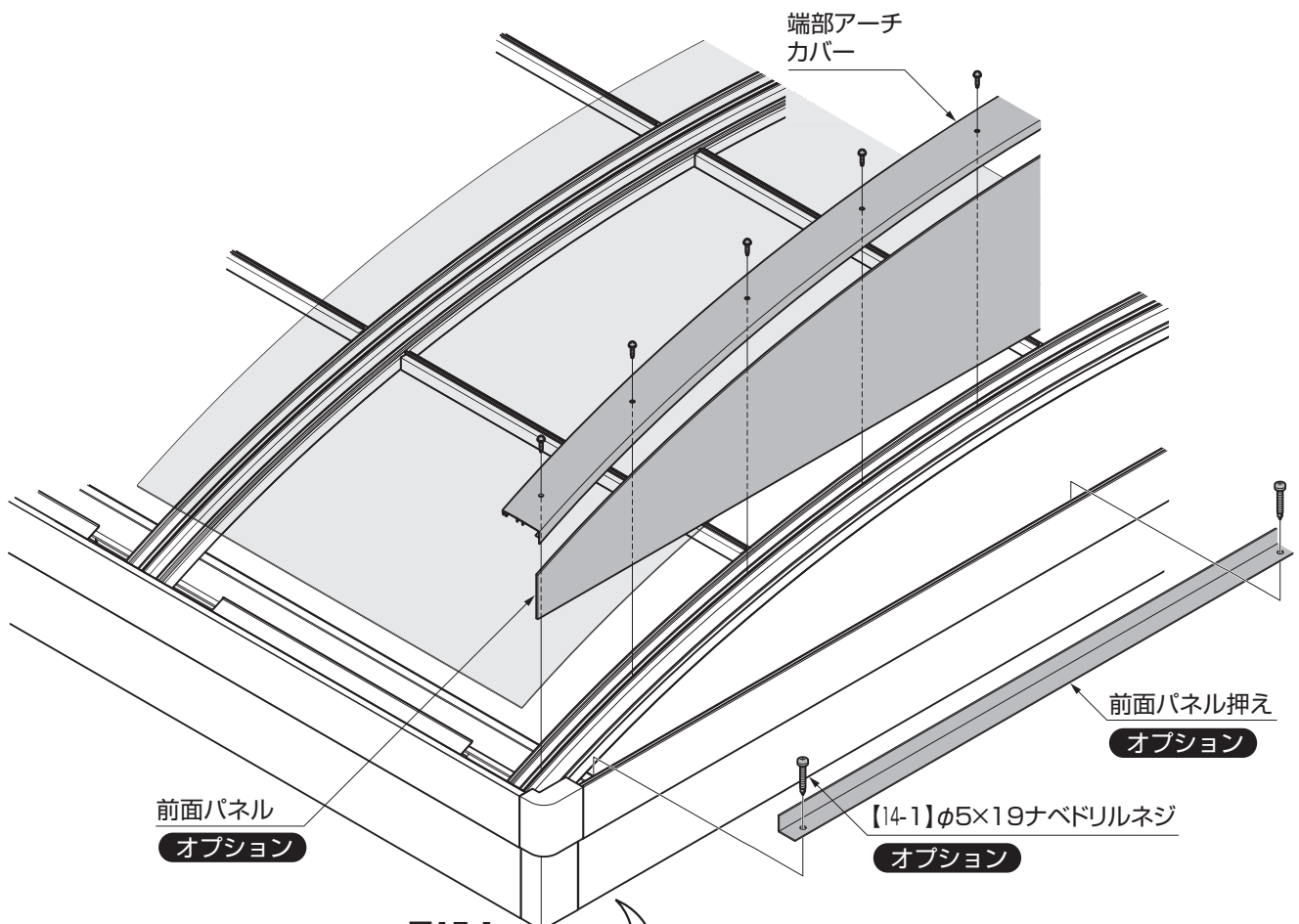


図15-1

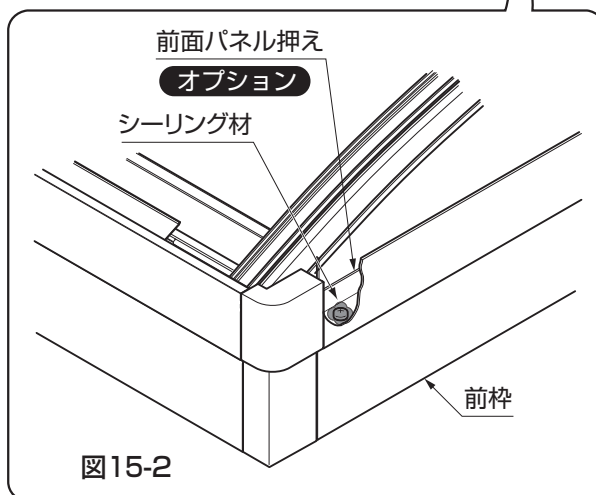


図15-2

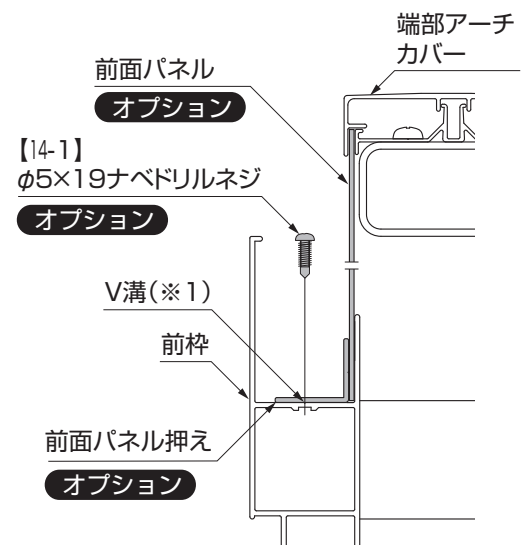


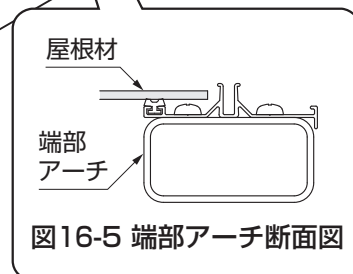
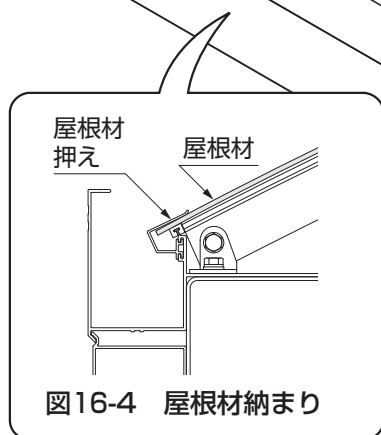
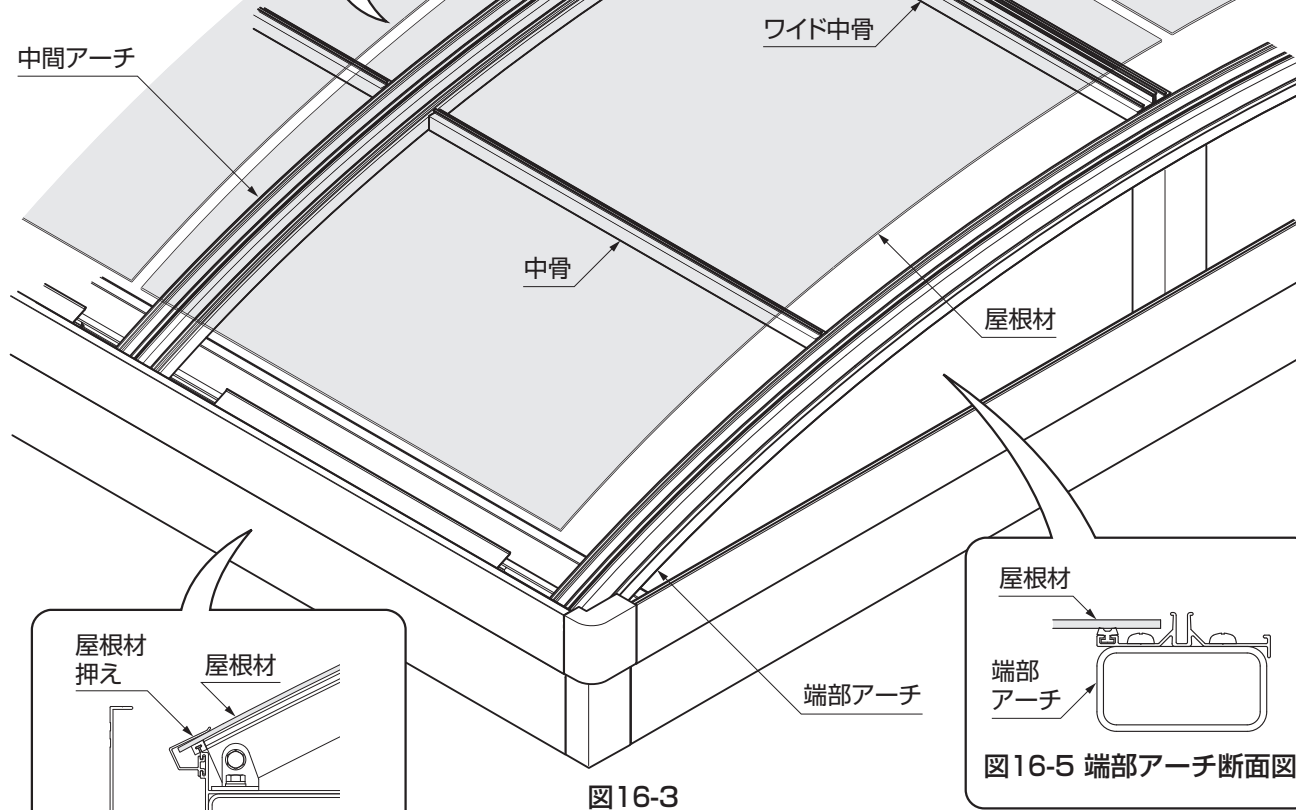
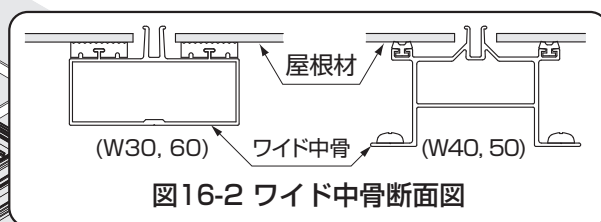
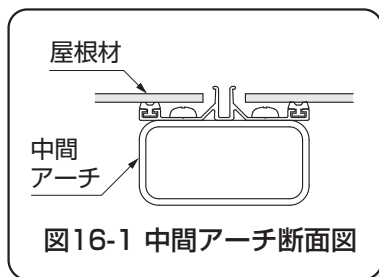
図15-3

ポイント

- 前面パネルには裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 【14-1】取付け部にシーリングしてください。(図15-2参照)
- 前面パネル押えは前枠のV溝部にネジ固定できるように取付けてください。(※1)

- ①端部アーチカバーの溝に前面パネルをはめ込み、端部アーチカバーを取付けてください。
- ②前面パネルを押えるように、前面パネル押えを前枠に【14-1】で取付けてください。

16. 両支持ワイド仕様(W30～W60)の屋根材の取付け



⚠ 注意

- 屋根材のエッジで手を切らないように、保護具をつけてから取付け作業を行ってください。

🔑 ポイント

- 屋根材(ポリカーボネート)には裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 屋根材に保護シートがついている場合は、はがしてください。

①屋根材を前後左右均等にアーチに乗せてください。

🔑 ポイント

- 屋根材の縁がアーチのフィンに当たらないようにしてください。アーチカバーが取付けられなくなります。
- 桁と屋根材押えとのすき間に屋根材を差込んでください。(図16-4参照)

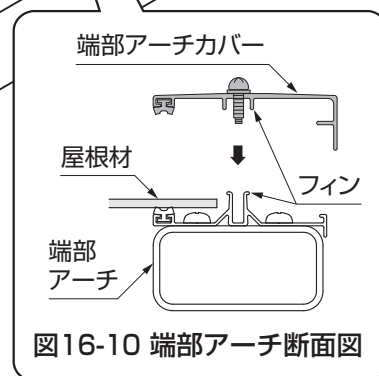
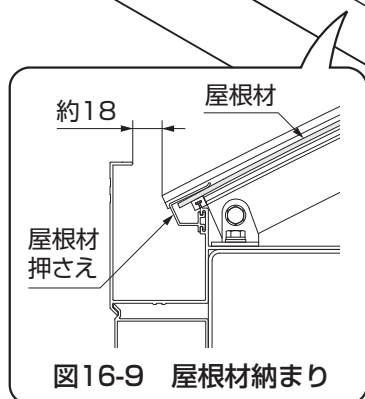
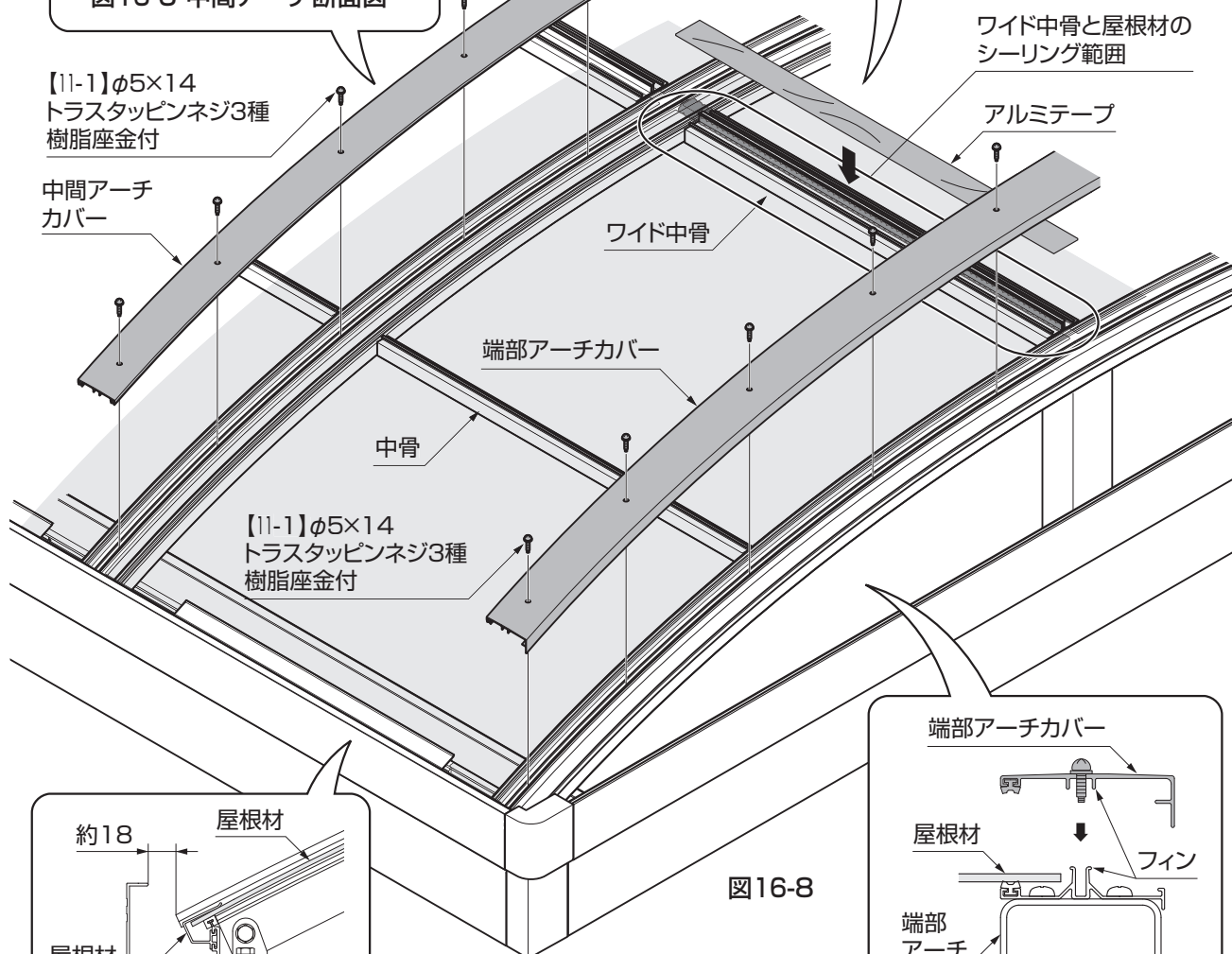
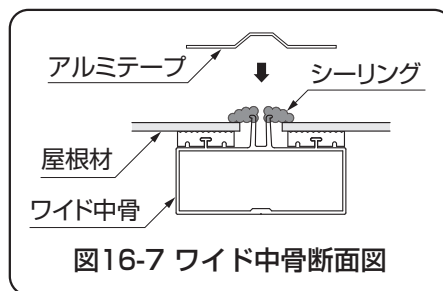
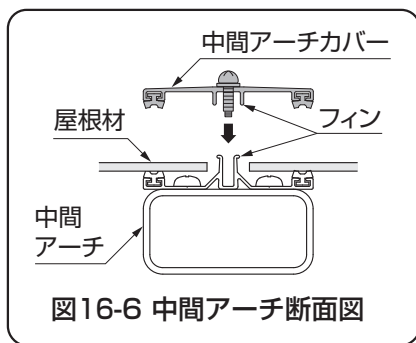


表16-1

アルミテープメーカー	品番
スリオンテック	8060
寺岡製作所	8371
日東電工	AT-50

補足

●アルミテープが足りない場合、当社指定のアルミテープを使用してください。(表16-1参照)

- ②屋根材を乗せたあと、ワイド中骨と屋根材のすき間にシーリングをしてください。(図16-7参照)
- ③シーリングした上からアルミテープを貼ってください。
- ④アーチのフィンと屋根材の間に、アーチカバーのフィンを差込んでください。
- ⑤【11-1】でアーチカバーをアーチの中央から、桁に向かって順番に取付けてください。

16. (つづき)

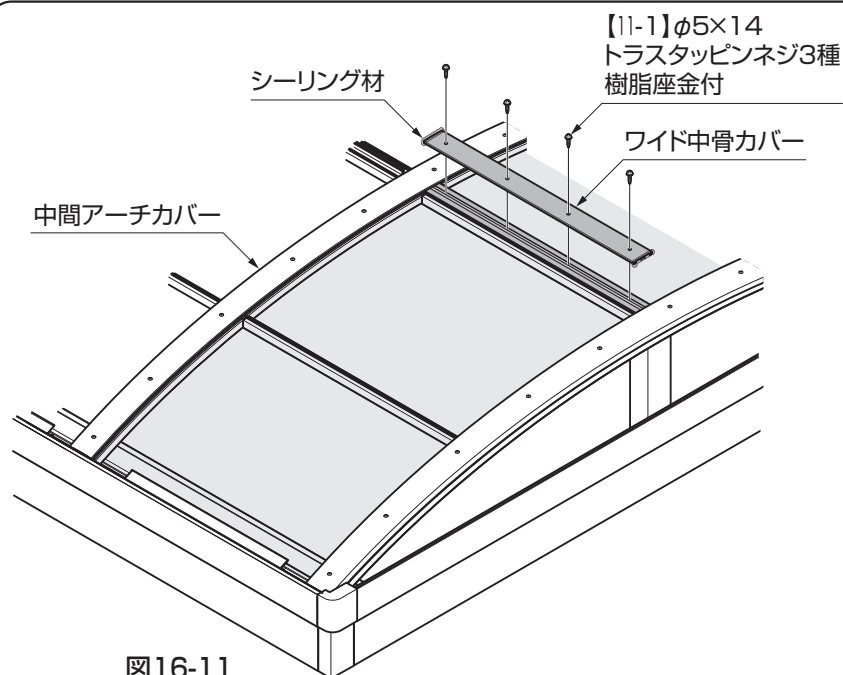


図16-11

⑥ワイド中骨とワイド中骨カバーを【11-1】で取付けてください。

⑦ワイド中骨カバーとアーチカバーの間にシーリング処理をしてください。

補足

- 十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。
- シリコンシーリング材を使用する場合、ポリカーボネート板のひび割れなどが考えられますので、当社指定のアルコール系シーリング材を使用してください。(表16-2参照)

表16-2

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン	トスシール380
トーレシリコン	SE960

17. 前面パネル(W40～60) オプション

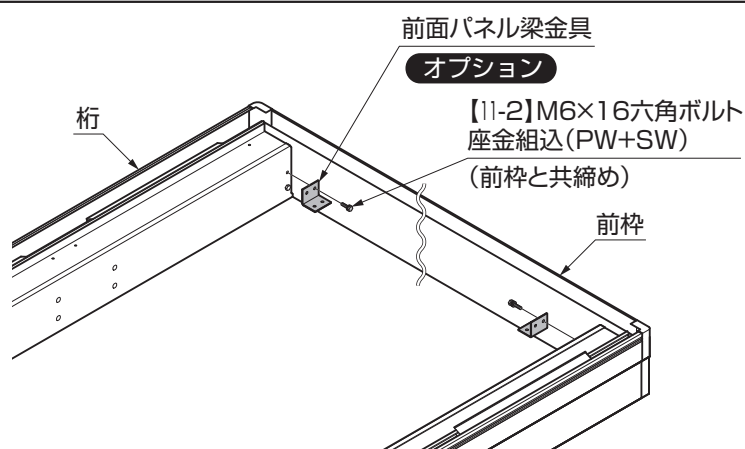


図17-1

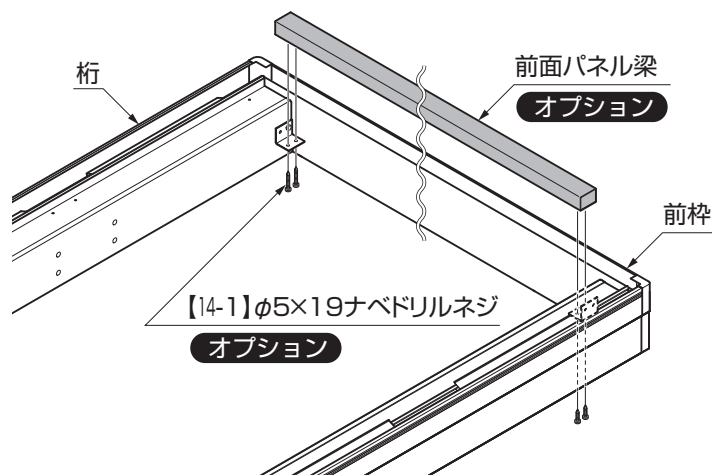


図17-2

①桁に前面パネル梁金具を【11-2】で前枠と共締めしてください。

②前面パネル梁金具に前面パネル梁を【14-1】で取付けてください。

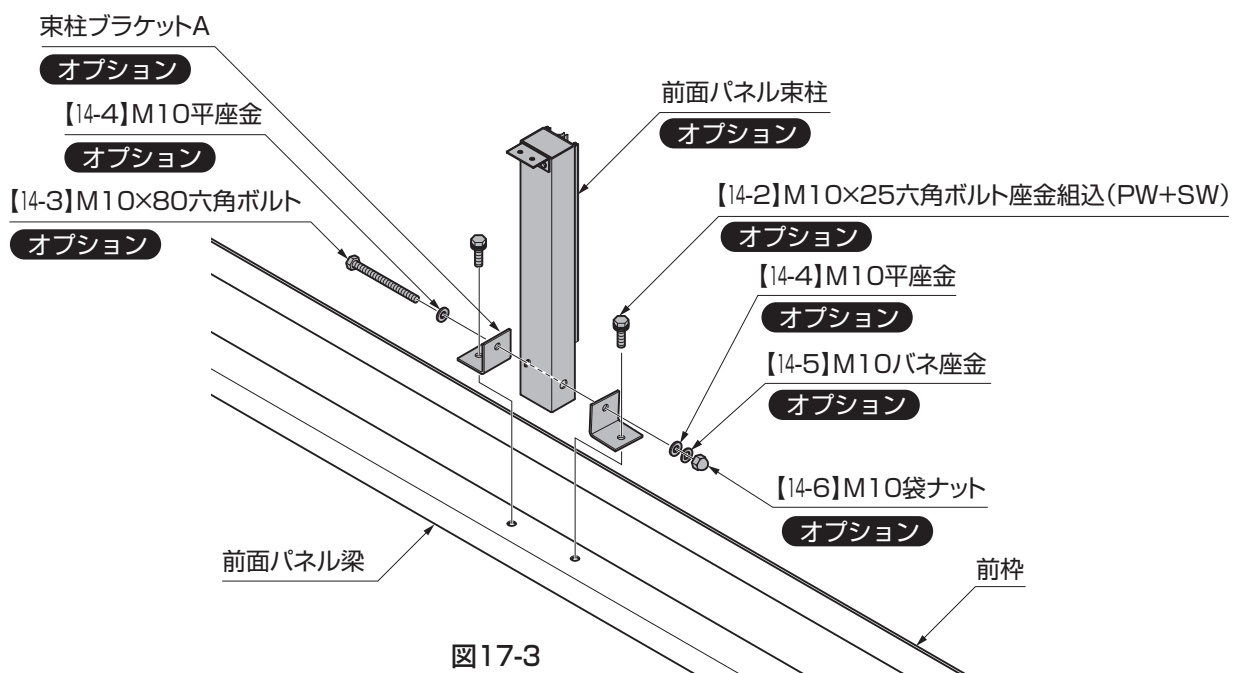


図17-3

- ③束柱ブラケットAを前面パネル梁に【14-2】で取付けてください。
 ④前面パネル束柱を束柱ブラケットAに【14-3】、【14-4】、【14-5】、【14-6】で取付けてください。

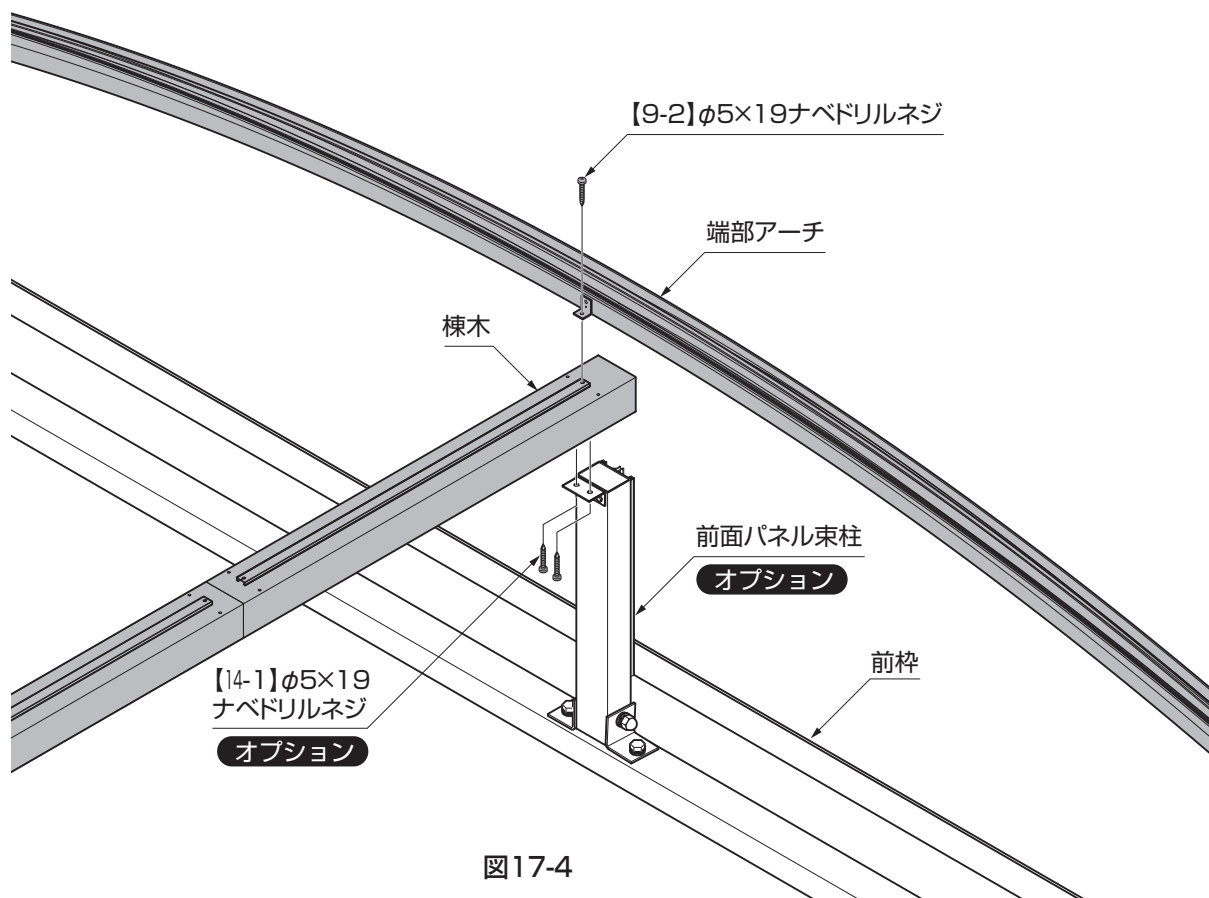


図17-4

- ⑤棟木を前面パネル束柱に【14-1】で取付けてください。
 ⑥端部アーチを棟木に【9-2】で取付けてください。

17. (つづき) オプション

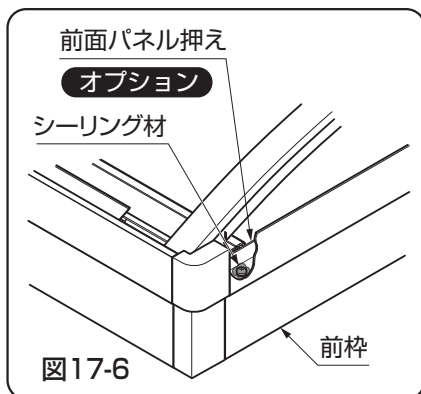


図17-6

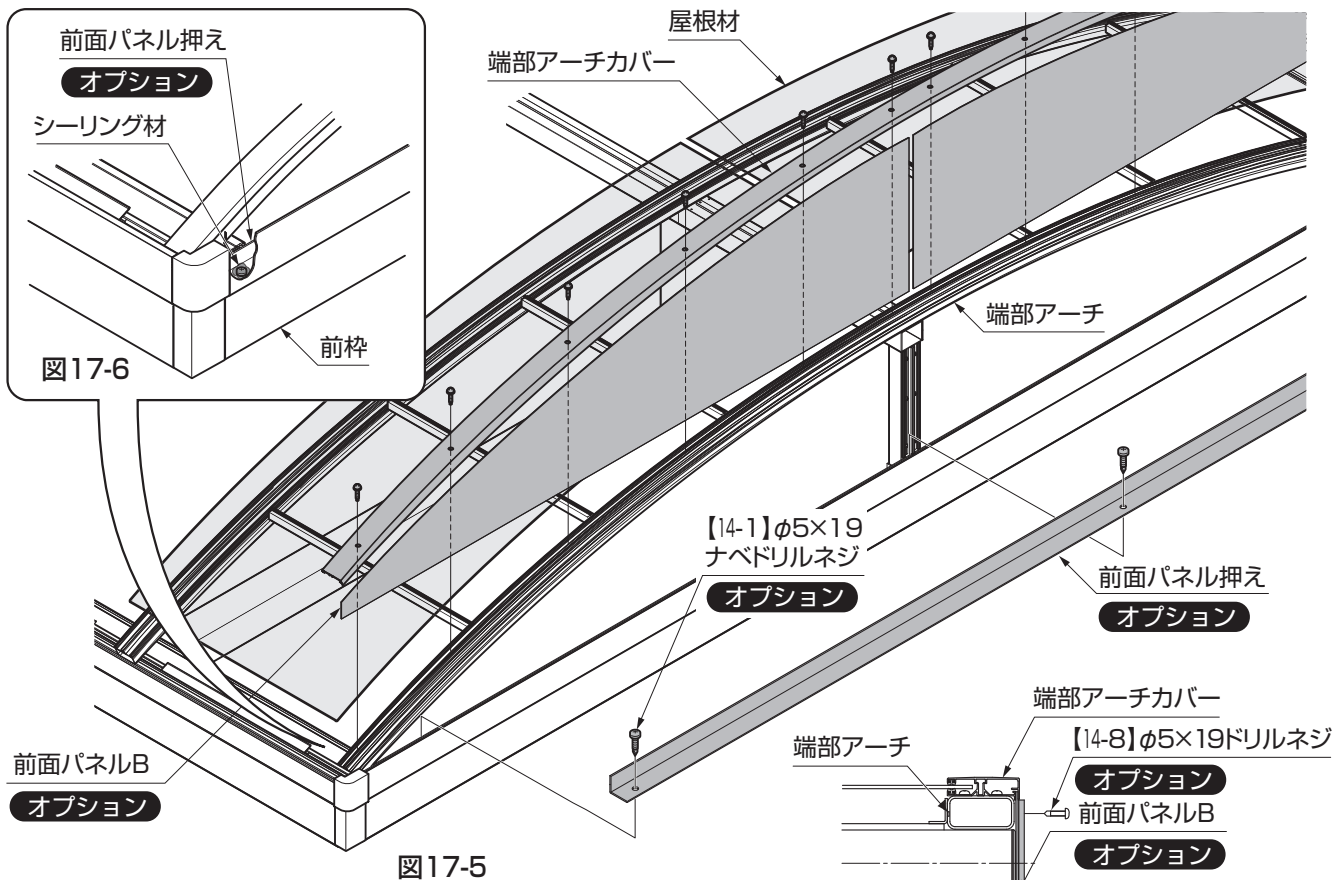


図17-5

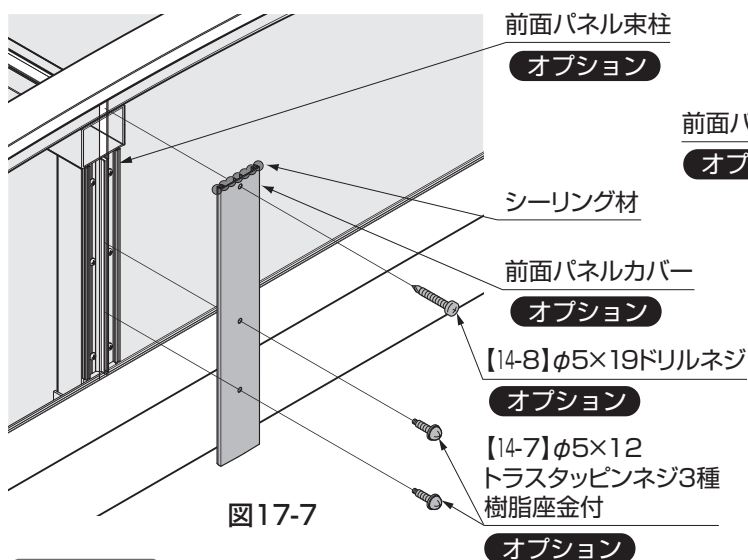


図17-7

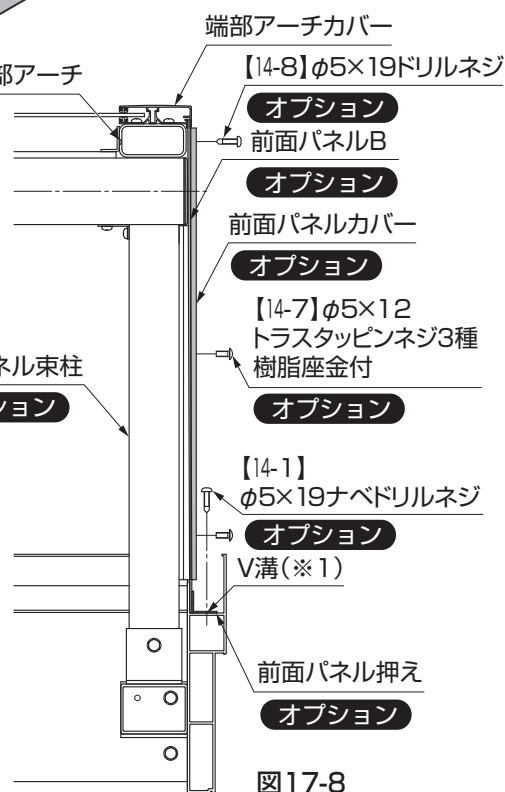


図17-8

ポイント

- 前面パネルには裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 【14-1】取付け部にシーリングしてください。(図17-6参照)
- 前面パネル押えは前枠のV溝部にネジ固定できるように取付けてください。(※1)

- ⑦端部アーチカバーの溝に前面パネルBをはめ込み、端部アーチカバーを取付けてください。
- ⑧前面パネルBを押えるように、前面パネル押えを前枠に【14-1】で取付けてください。
- ⑨前面パネルカバーを、一番上は【14-8】でアーチに、それ以外は前面パネル束柱に【14-7】で取付けてください。
- ⑩前面パネルカバー上部にシーリングしてください。

18. 壁付けブラケット オプション

18-1 桁側(側面)に取付ける場合

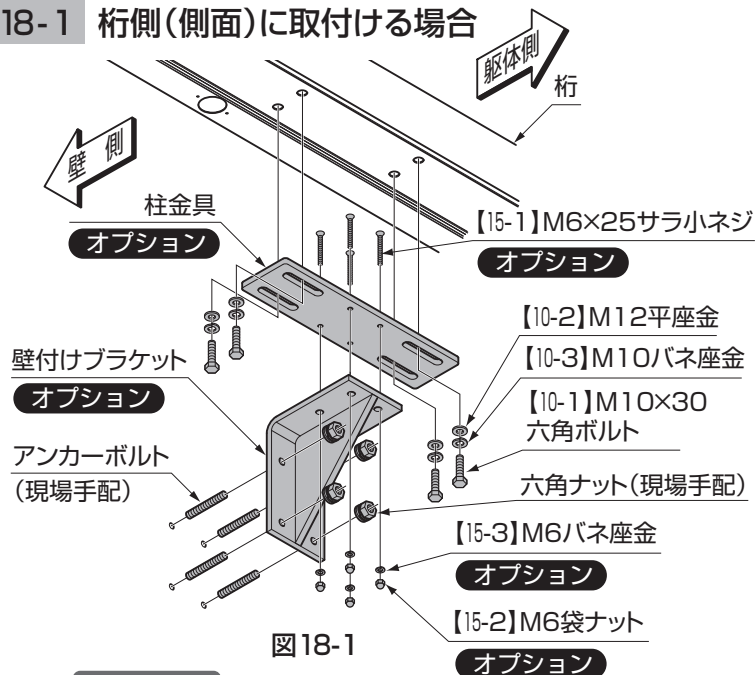


図18-1

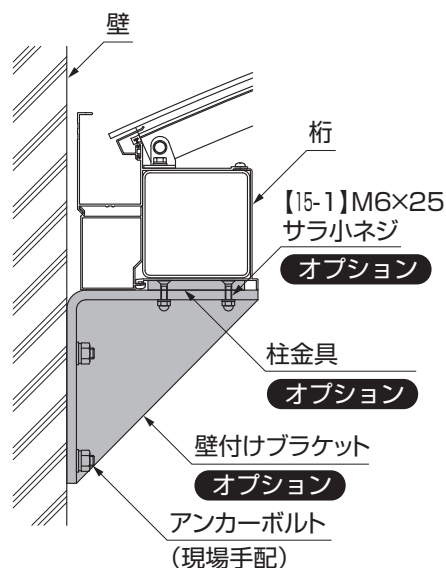


図18-2

⚠ 注意

●壁付けブラケットにはφ12の取付け孔があいています。製品強度確保のため、壁の強度を十分考慮してアンカーボルトを選定してください。

- ①壁付けブラケットに柱金具を【15-1】、【15-2】、【15-3】で取付けてください。
- ②壁付けブラケットと桁を【10-1】、【10-2】、【10-3】で取付けてください。
- ③アンカーボルトで壁付けブラケットを壁に取付けてください。

18-2 前枠(前面)に取付ける場合

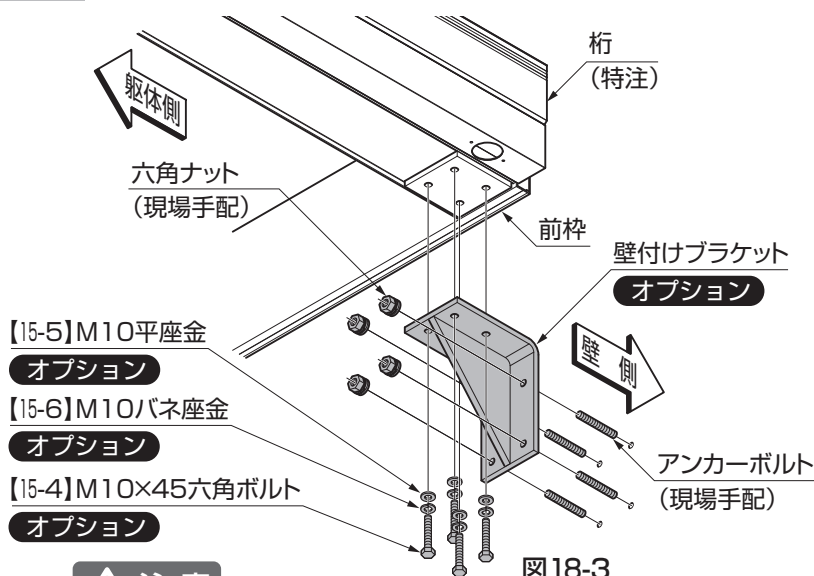


図18-3

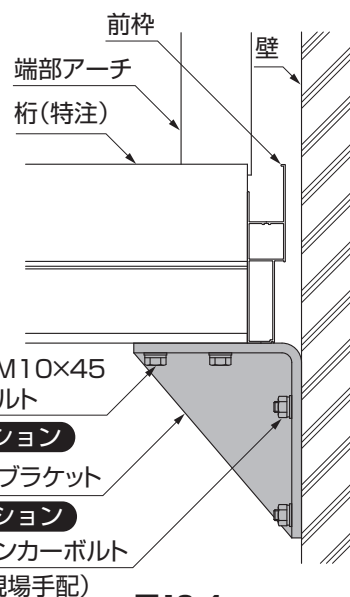


図18-4

⚠ 注意

●壁付けブラケットにはφ12の取付け孔があいています。製品強度確保のため、壁の強度を十分考慮してアンカーボルトを選定してください。

- ①壁付けブラケットに柱金具Aのをせ、【15-4】、【15-5】、【15-6】で桁に取付けてください。
- ②アンカーボルトで壁付けブラケットを壁に取付けてください。

19. 水切り材 **オプション**

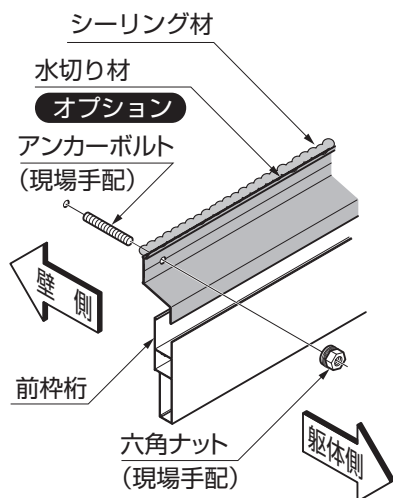


図19-1

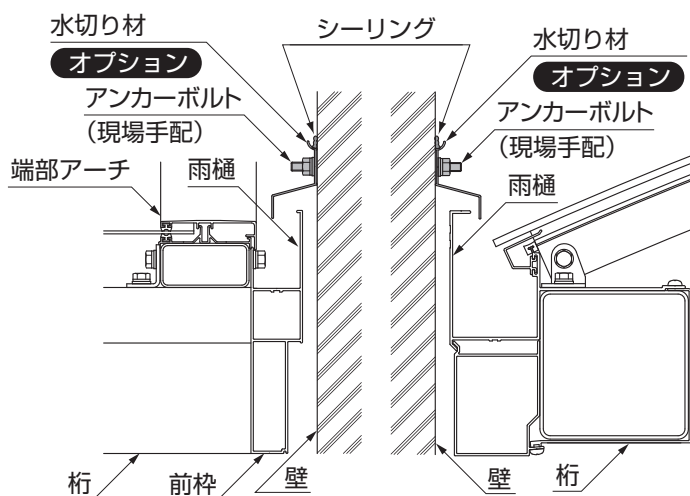


図19-2 前枠側の場合

図19-3 桁側の場合

①アンカーボルトで水切り材の下部が、前枠または桁の雨樋にかかるように壁に取付けてください。

ポイント

- 壁と水切り材のすき間をシーリングしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。

注意

- 水切り材にはφ7の取付け孔があいています。製品強度確保のため壁の強度に考慮してアンカーボルトを選定してください。

取説コード

E297

JZZ618830F
200909A_1041
201908G_1049